2013年3月期 第2Q決算説明会

2012年11月8日

宝ホールディングス株式会社

TAKARA HOLDINGS INC.

本日の内容

Ⅰ. 2013年3月期 第2Q業績報告と通期業績予想

（発表者：取締役 事業管理、財務・IR、経理担当　松崎 修一郎）

1. 2013年3月期 第2Q業績報告
   宝ホールディングス連結、宝酒造グループ
2. 2013年3月期 通期業績予想
   宝ホールディングス連結、宝酒造グループ

Ⅱ. 事業戦略

（発表者：代表取締役社長　柿本 敏男）

1. 宝ホールディングス連結
   2013年3月期の業績概況、TaKaRaグループの中長期戦略、
   中期経営計画2013定量目標のレビュー
2. 宝酒造グループ
   2013年3月期の業績概況、国内の事業環境と事業戦略、海外の事業環境と事業戦略
3. 宝ヘルスケア
   宝ヘルスケアの概況
4. マネジメント・メッセージ

＜参考資料＞

宝HLD連結_包括利益計算書、宝HLD連結_BS概要・CF概要、為替前提、株主還元方針

TAKARA HOLDINGS INC.　2

【第Ⅰ部　発表者：取締役 事業管理、財務・IR、経理担当　松崎 修一郎】

- 本日は、お忙しいところ当社グループの2013年3月期 第2四半期の決算説明会にお集まりいただき誠にありがとうございます。
- まず、第2四半期の決算と通期の業績予想について、ご説明させていただきます。

1．2013年3月期 第2Q業績報告

宝ホールディングス連結
宝酒造グループ

• 宝ホールディングス連結の2013年3月期 第2四半期決算について説明いたします。

宝HLD連結_P/L概要：売上高～営業利益

（2013年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	13/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
宝酒造グループ	84,909	▲ 87	▲ 0.1	1,209	1.4
タカラバイオグループ	9,013	371	4.3	▲ 549	▲ 5.7
宝ヘルスケア	1,135	▲ 190	▲ 14.4	▲ 114	▲ 9.1
その他	653	139	27.2	65	11.1
売上高	95,711	233	0.2	611	0.6
売上原価	59,163	580	1.0	263	0.4
売上総利益	36,548	▲ 346	▲ 0.9	348	1.0
運送費	3,528	▲ 193	▲ 5.2	128	3.8
広告宣伝費	2,088	31	1.5	▲ 111	▲ 5.1
販売促進費	15,914	362	2.3	14	0.1
研究開発費	1,489	49	3.4	▲ 110	▲ 6.9
管理費、その他	10,627	▲ 171	▲ 1.6	127	1.2
販売費及び一般管理費	33,648	79	0.2	48	0.1
宝酒造グループ	2,014	▲ 555	▲ 21.6	214	11.9
タカラバイオグループ	423	29	7.6	10	2.5
宝ヘルスケア	▲ 3	83	ー	▲ 6	ー
その他	464	16	3.7	80	21.0
営業利益	2,899	▲ 426	▲ 12.8	299	11.5

TAKARA HOLDINGS INC. 4

- 連結損益計算書の売上高から営業利益について説明いたします。

＜前期比＞

- 売上高は、タカラバイオグループでの371百万円の増収などがあり、前期比233百万円増収の95,711百万円となりました。
- 売上原価は580百万円増加し、売上総利益は前期比346百万円減益の36,548百万円となりました。
- 販管費は、運送費、管理費等が減少しましたが、販売促進費が増加し、前期並みの33,648百万円となりました。
- その結果、営業利益は前期比426百万円減益の2,899百万円となりました。

＜期初計画比＞

- 売上高は、タカラバイオグループで549百万円、宝ヘルスケアで114百万円下回りましたが、宝酒造グループで1,209百万円上回り、期初計画を611百万円上回りました。
- 売上原価は期初計画から263百万円増加しましたが、売上総利益は期初計画を348百万円上回りました。
- 販管費は計画並となり、その結果、営業利益は期初計画を299百万円上回りました。

宝HLD連結_P/L概要：営業利益～経常利益

（2013年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	13/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
営業利益	2,899	▲ 426	▲ 12.8	299	11.5
受取利息	86	1	1.2		
受取配当金	195	▲ 11	▲ 5.5		
受取利息・配当金	281	▲ 10	▲ 3.5	▲ 18	▲ 6.2
持分法投資利益	33	14	76.2		
その他	139	▲ 23	▲ 14.6		
その他営業外収益	172	▲ 9	▲ 5.2	22	14.8
営業外収益	453	▲ 19	▲ 4.2	3	0.8
支払利息	84	▲ 10	▲ 10.9		
社債利息	194	34	21.3		
支払利息	278	23	9.4	▲ 21	▲ 7.2
社債発行費	76	76	―		
為替差損	42	18	80.0		
その他	81	11	16.8		
その他営業外費用	200	106	114.6	50	33.5
営業外費用	478	130	37.6	28	6.4
経常利益	2,874	▲ 576	▲ 16.7	274	10.6

TAKARA HOLDINGS INC. 5

- 営業外損益の状況について説明いたします。

＜前期比＞

- 営業外収益は、受取配当金の減少などにより、19百万円減少の453百万円となりました。
- 営業外費用は、社債の発行に伴う社債利息の増加、社債発行費の発生に加え、為替差損が増加し、130百万円増加の478百万円となりました。
- その結果、経常利益は前期比576百万円減益の2,874百万円となりました。

＜期初計画比＞

- 営業外損益は期初計画並となり、営業利益の増加を受けて、経常利益は期初計画を274百万円上回りました。

宝HLD連結_P/L概要：経常利益～四半期純利益 （2013年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	13/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
経常利益	2,874	▲ 576	▲ 16.7	274	10.6
固定資産売却益	133	▲ 63	▲ 32.2		
投資有価証券売却益	―	▲ 2	―		
その他	―	▲ 14	―		
特別利益	133	▲ 80	▲ 37.6	133	―
投資有価証券評価損	1,019	661	184.8		
固定資産除売却損	111	▲ 54	▲ 32.7		
厚生年金基金脱退損失	260	260	―		
震災による特別損失	―	▲ 805	―		
その他	9	▲ 55	▲ 85.3		
特別損失	1,400	6	0.5	1,200	600.4
税金等調整前四半期純利益	1,607	▲ 663	▲ 29.2	▲ 792	▲ 33.0
法人税等	1,042	▲ 151	▲ 12.7	▲ 57	▲ 5.2
少数株主利益	158	41	35.5	58	58.9
四半期純利益	405	▲ 554	▲ 57.7	▲ 794	▲ 66.2

TAKARA HOLDINGS INC. 6

- 特別損益および四半期純利益の状況について説明いたします。

＜前期比＞

- 特別利益は、固定資産売却益の減少などにより、80百万円減少の133百万円となりました。
- 特別損失においては、投資有価証券評価損が前期比661百万円増加の1,019百万円となったほか、物流子会社において厚生年金基金脱退損失が260百万円発生しましたが、前期には震災による特別損失が805百万円発生していましたので、特別損失合計では、前期並みの1,400百万円となりました。
- その結果、四半期純利益は前期比554百万円減益の405百万円となりました。

＜期初計画比＞

- 投資有価証券評価損の発生などにより、特別損失が1,200百万円上回り、その結果、四半期純利益は期初計画を794百万円下回りました。
- 投資有価証券評価損につきましては、通期では8億円を期初計画に織り込んでいましたが、第2四半期累計期間の計画には織り込んでいませんでした。
- 前期3月末の株価を前提にすると、来年3月末には3期連続で7割を下回ることとなる銘柄について評価損を予算化していましたが、それ以前に5割を切ったということです。

1．2013年3月期 第2Q業績報告

宝ホールディングス連結
宝酒造グループ

• 宝酒造グループの2013年3月期 第2四半期の決算について説明いたします。

宝酒造G_P/L概要

（2013年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	13/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
焼酎	35,817	▲ 911	▲ 2.5	217	0.6
清酒	7,903	539	7.3	103	1.3
ソフトアルコール飲料	13,463	▲ 1,748	▲ 11.5	▲ 936	▲ 6.5
その他酒類	5,404	490	10.0	404	8.1
本みりん	6,928	43	0.6	128	1.9
その他調味料	3,676	172	4.9	▲ 23	▲ 0.6
原料用アルコール等	3,223	126	4.1	623	24.0
その他	8,490	1,200	16.5	690	8.9
売上高	84,909	▲ 87	▲ 0.1	1,209	1.4
売上原価	54,287	534	1.0	1,087	2.0
売上総利益	30,622	▲ 622	▲ 2.0	122	0.4
運送費	3,187	▲ 203	▲ 6.0	▲ 12	▲ 0.4
広告宣伝費	1,934	113	6.2	▲ 65	▲ 3.3
販売促進費	15,450	367	2.4	50	0.3
研究開発費	179	▲ 2	▲ 1.5	▲ 20	▲ 10.0
管理費、その他	7,856	▲ 341	▲ 4.2	▲ 43	▲ 0.6
販売費及び一般管理費	28,608	▲ 66	▲ 0.2	▲ 91	▲ 0.3
営業利益	2,014	▲ 555	▲ 21.6	214	11.9

TAKARA HOLDINGS INC. 8

- 宝酒造グループの損益概要について説明いたします。

＜前期比＞

- 売上高は、焼酎で911百万円、ソフトアルコール飲料で1,748百万円の減収となりましたが、清酒で539百万円、その他の部門で1,200百万円の増収となり、前期並みの84,909百万円となりました。
- 一方、コストアップなどにより、売上原価は前期比534百万円増加し、売上総利益は前期比622百万円減益の30,622百万円となりました。
- 販管費は、運送費、管理費等が減少しましたが、広告宣伝費、販売促進費が増加し、前期並みの28,608百万円となりました。
- その結果、営業利益は前期比555百万円減益の2,014百万円となりました。

＜期初計画比＞

- 売上高で1,209百万円、営業利益で214百万円、それぞれ期初計画を上回りました。

宝酒造G_売上高増減分析

（2013年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	13/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
焼酎	35,817	▲ 911	▲ 2.5	217	0.6
清酒	7,903	539	7.3	103	1.3
ソフトアルコール飲料	13,463	▲ 1,748	▲ 11.5	▲ 936	▲ 6.5
その他酒類	5,404	490	10.0	404	8.1
本みりん	6,928	43	0.6	128	1.9
その他調味料	3,676	172	4.9	▲ 23	▲ 0.6
原料用アルコール等	3,223	126	4.1	623	24.0
その他	8,490	1,200	16.5	690	8.9
売上高	84,909	▲ 87	▲ 0.1	1,209	1.4

◆売上高の主な増減要因

（単位：百万円）

＜焼酎＞	前期比	期初計画比
混和焼酎	▲ 668	+ 384
35度（果実酒用）	▲ 305	▲ 154

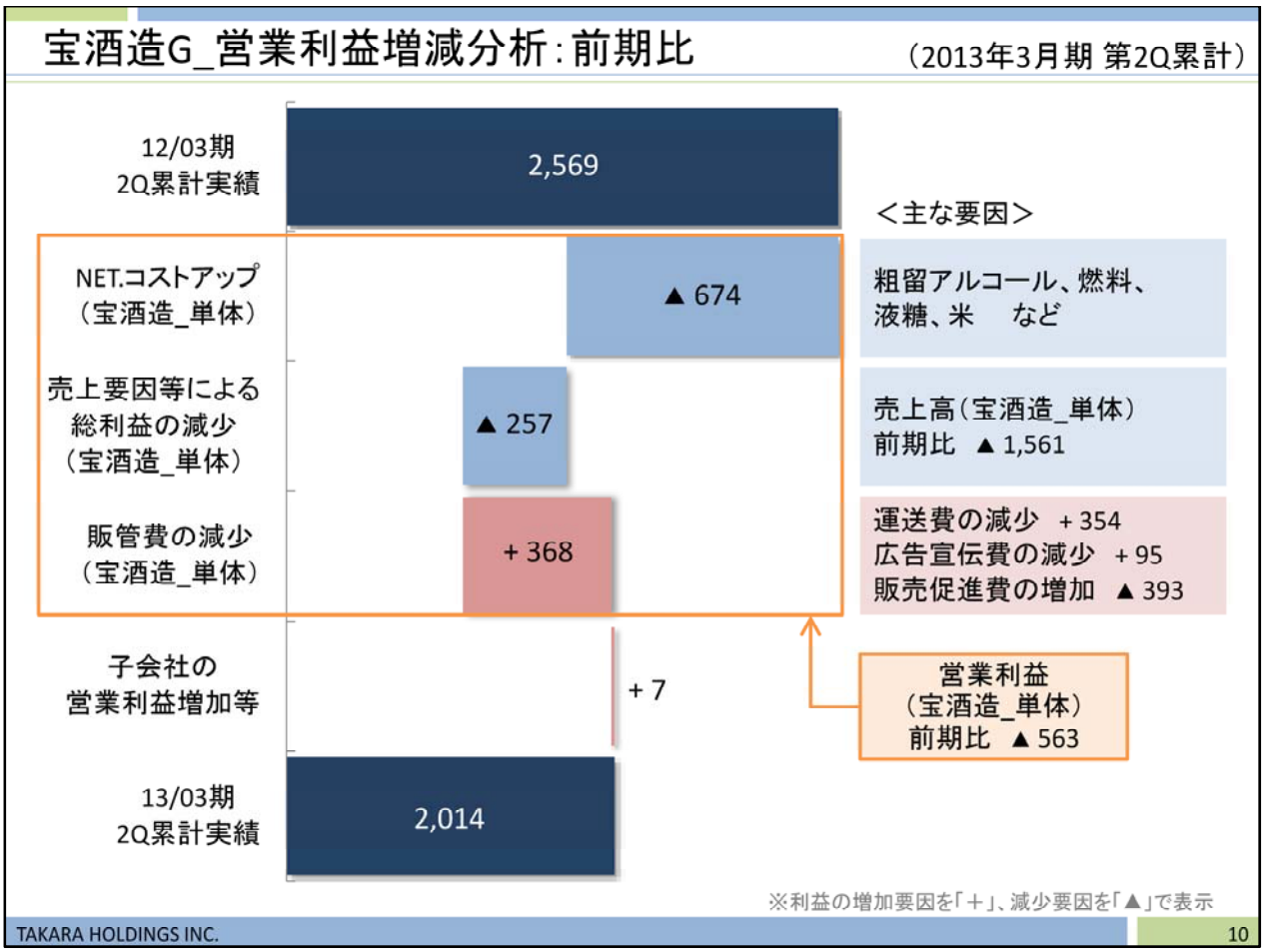
＜ソフトアルコール飲料＞	前期比	期初計画比
焼酎ハイボール	+ 560	▲ 182
直搾り	▲ 1,520	▲ 389

＜清酒＞	前期比	期初計画比
天	+ 257	+ 87
豪快	+ 109	▲ 5

＜その他＞	前期比	期初計画比
フーデックス	+ 240	+ 227
物流	+ 1,017	+ 598

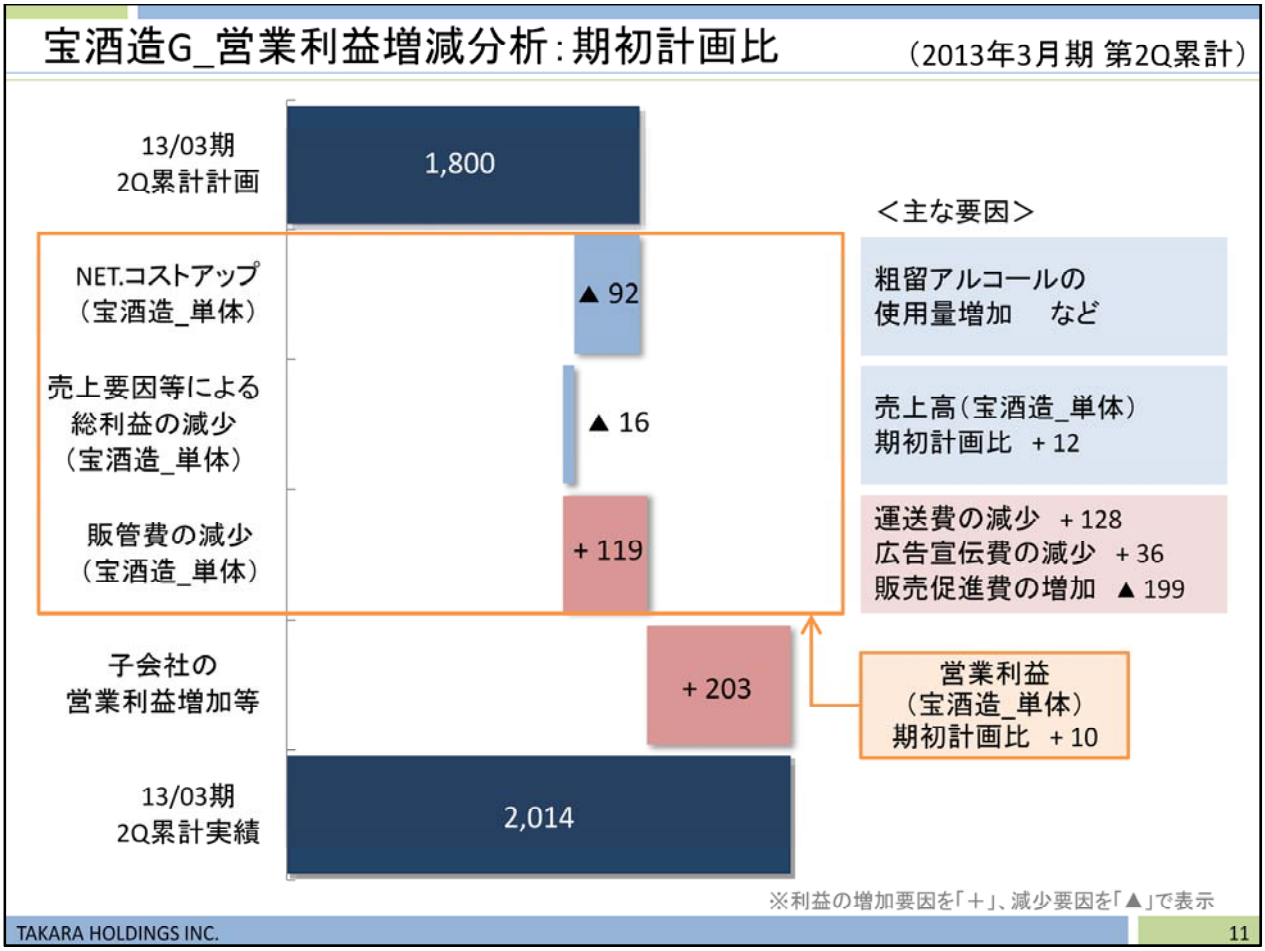
TAKARA HOLDINGS INC. 9

• 売上高の主な増減要因は、ご覧の通りです。



- 前期比での営業利益の増減について説明いたします。

- 原価面では、粗留アルコール、燃料、液糖、米などの原材料価格が高騰し、コストダウンと差し引いた、ネットのコストアップは674百万円となりました。
- 売上の減少や商品構成の変化など、売上要因による総利益の減少が257百万円となりました。
- 販管費は、運送費を中心に368百万円減少しましたが、宝酒造単体の営業利益は前期比563百万円の減益となりました。
- 宝酒造単体以外の子会社等の要因は前期並みとなりました。



- 期初計画比での営業利益の増減について説明いたします。

- 原価面では、粗留アルコールを中心に、想定していた価格よりも単価は低く抑えることができましたが、使用量が増えたことなどにより、ネットのコストアップは期初計画から92百万円増加しました。
- 一方で、販管費が119百万円減少しましたので、宝酒造単体の営業利益は期初計画並みとなりました。
- また、子会社等では期初計画を上回りましたので、宝酒造グループの営業利益は期初計画を214百万円上回る2,014百万円となりました。

2．2013年3月期 通期業績予想

宝ホールディングス連結

宝酒造グループ

• 宝ホールディングス連結の通期業績予想について説明いたします。

宝HLD連結_P/L概要：売上高～営業利益　（2013年3月期 通期業績予想）

（単位：百万円）	13/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
宝酒造グループ	178,000	2,496	1.4	―	―
タカラバイオグループ	20,700	1,121	5.7	▲ 399	▲ 1.9
宝ヘルスケア	2,000	▲ 338	▲ 14.5	▲ 250	▲ 11.1
その他	1,500	230	18.1	50	3.4
売上高	202,200	3,509	1.8	▲ 600	▲ 0.3
売上原価	123,300	1,837	1.5	▲ 600	▲ 0.5
売上総利益	78,900	1,671	2.2	―	―
運送費	7,200	▲ 167	▲ 2.3	―	―
広告宣伝費	3,800	39	1.1	▲ 300	▲ 7.3
販売促進費	33,500	1,063	3.3	500	1.5
研究開発費	3,300	272	9.0	▲ 200	▲ 5.7
管理費、その他	21,600	227	1.1	―	―
販売費及び一般管理費	69,400	1,436	2.1	―	―
宝酒造グループ	7,000	231	3.4	―	―
タカラバイオグループ	1,600	52	3.4	0	0.0
宝ヘルスケア	▲ 30	84	―	▲ 60	―
その他	930	▲ 133	▲ 12.6	60	6.9
営業利益	9,500	235	2.5	―	―

TAKARA HOLDINGS INC.　13

- 売上高から営業利益について、期初計画から見直した点を説明いたします。

- 売上高は、タカラバイオグループで399百万円、宝ヘルスケアで250百万円、それぞれ期初計画を下回る見込みとなり、600百万円下方修正し、202,200百万円としました。
- 売上原価は、売上高が計画を下回る見通しであることに加えて、コストアップの抑制などもあり原価率が改善し、600百万円減少する見通しであり、売上総利益は期初計画を据え置いています。
- 販管費は、広告宣伝費が300百万円、研究開発費が200百万円減少する見込みですが、販売促進費が500百万円増加する見込みであり、期初計画並となる見通しです。
- その結果、営業利益は期初計画通り9,500百万円としております。

宝HLD連結_P/L概要：営業利益～当期純利益（2013年3月期 通期業績予想）

（単位：百万円）	13/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
営業利益	9,500	235	2.5	―	―
受取利息・配当金	550	10	1.9	―	―
その他営業外収益	400	▲ 135	▲ 25.2	―	―
営業外収益	950	▲ 124	▲ 11.6	―	―
支払利息	550	48	9.6	―	―
その他営業外費用	250	29	13.6	―	―
営業外費用	800	77	10.8	―	―
経常利益	9,650	32	0.3	―	―
特別利益	1,500	1,053	236.1	600	66.7
特別損失	2,100	626	42.5	500	31.3
税金等調整前当期純利益	9,050	459	5.3	100	1.1
法人税等	3,950	▲ 223	▲ 5.4	100	2.6
少数株主利益	500	78	18.5	―	―
当期純利益	4,600	604	15.1	―	―

◆株主還元について

- 2012年8月に1,565百万円（280万株）の自己株式取得を実施
- 1株当たり9円の配当と合わせて、株主還元性向は56.7%となる見込み

TAKARA HOLDINGS INC. 14

- 営業外収益から四半期純利益について、期初計画から見直した点を説明いたします。

- 特別利益が600百万円、特別損失が500百万円増加する見通しです。
- 特別利益については、固定資産売却益が250百万円程度増加する見通しであるのに加えて、タカラバイオグループにおいて退職金制度の変更に伴う特別利益が発生する見通しです。
- 特別損失については、期初計画では約8億円と見込んでいた投資有価証券評価損を約13億円に見直しています。
- 以上の結果、当期純利益は期初計画通り4,600百万円としております。

- 当期の株主還元については、8月に1,565百万円の自己株式取得を実施しましたので、業績予想を前提に、1株当たり9円の配当と合わせて、株主還元性向（算式はP54参照）は56.7%となる見込みです。

2．2013年3月期 通期業績予想

宝ホールディングス連結

宝酒造グループ

• 宝酒造グループの業績予想について説明いたします。

宝酒造G_P/L概要

（2013年3月期 通期業績予想）

（単位：百万円）	13/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
焼酎	71,600	▲ 1,858	▲ 2.5	▲ 1,200	▲ 1.6
清酒	22,800	1,832	8.7	1,000	4.6
ソフトアルコール飲料	26,400	▲ 325	▲ 1.2	▲ 1,000	▲ 3.6
その他酒類	10,300	▲ 476	▲ 4.4	▲ 200	▲ 1.9
本みりん	14,900	181	1.2	100	0.7
その他調味料	7,900	476	6.4	▲ 100	▲ 1.3
原料用アルコール等	6,900	387	5.9	700	11.3
その他	17,200	2,277	15.3	700	4.2
売上高	178,000	2,496	1.4	―	―
売上原価	111,600	1,145	1.0	▲ 200	▲ 0.2
売上総利益	66,400	1,350	2.1	200	0.3
運送費	6,800	74	1.1	―	―
広告宣伝費	3,400	57	1.7	▲ 300	▲ 8.1
販売促進費	32,500	1,066	3.4	500	1.6
研究開発費	400	28	7.5	―	―
管理費、その他	16,300	▲ 107	▲ 0.7	―	―
販売費及び一般管理費	59,400	1,119	1.9	200	0.3
営業利益	7,000	231	3.4	―	―

TAKARA HOLDINGS INC. 16

- 期初計画から見直した点を説明いたします。

- 売上高は、焼酎が1,200百万円、ソフトアルコール飲料が1,000百万円下回る見込みですが、清酒で1,000百万円、原料用アルコール等で700百万円、その他の部門で700百万円上回り、品目間で増減はありますが、期初計画通り178,000百万円となる見通しです。
- 利益面では、コストアップが想定以下に収まる見込みですので、売上総利益は200百万円上回る見通しです。
- 販管費は、広告宣伝費が300百万円減少する見込みですが、販売促進費が500百万円増加する見込みであり、200百万円増加する見通しです。
- 以上の結果、営業利益は期初計画通り7,000百万円としております。

宝酒造G_売上高増減分析

（2013年3月期 通期業績予想）

（単位：百万円）	13/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
焼酎	71,600	▲ 1,858	▲ 2.5	▲ 1,200	▲ 1.6
清酒	22,800	1,832	8.7	1,000	4.6
ソフトアルコール飲料	26,400	▲ 325	▲ 1.2	▲ 1,000	▲ 3.6
その他酒類	10,300	▲ 476	▲ 4.4	▲ 200	▲ 1.9
本みりん	14,900	181	1.2	100	0.7
その他調味料	7,900	476	6.4	▲ 100	▲ 1.3
原料用アルコール等	6,900	387	5.9	700	11.3
その他	17,200	2,277	15.3	700	4.2
売上高	178,000	2,496	1.4	―	―

◆売上高の主な増減要因

（単位：百万円）

＜焼酎＞	前期比	期初計画比
甲類焼酎	▲ 896	▲ 1,026
混和焼酎	▲ 1,342	+ 213

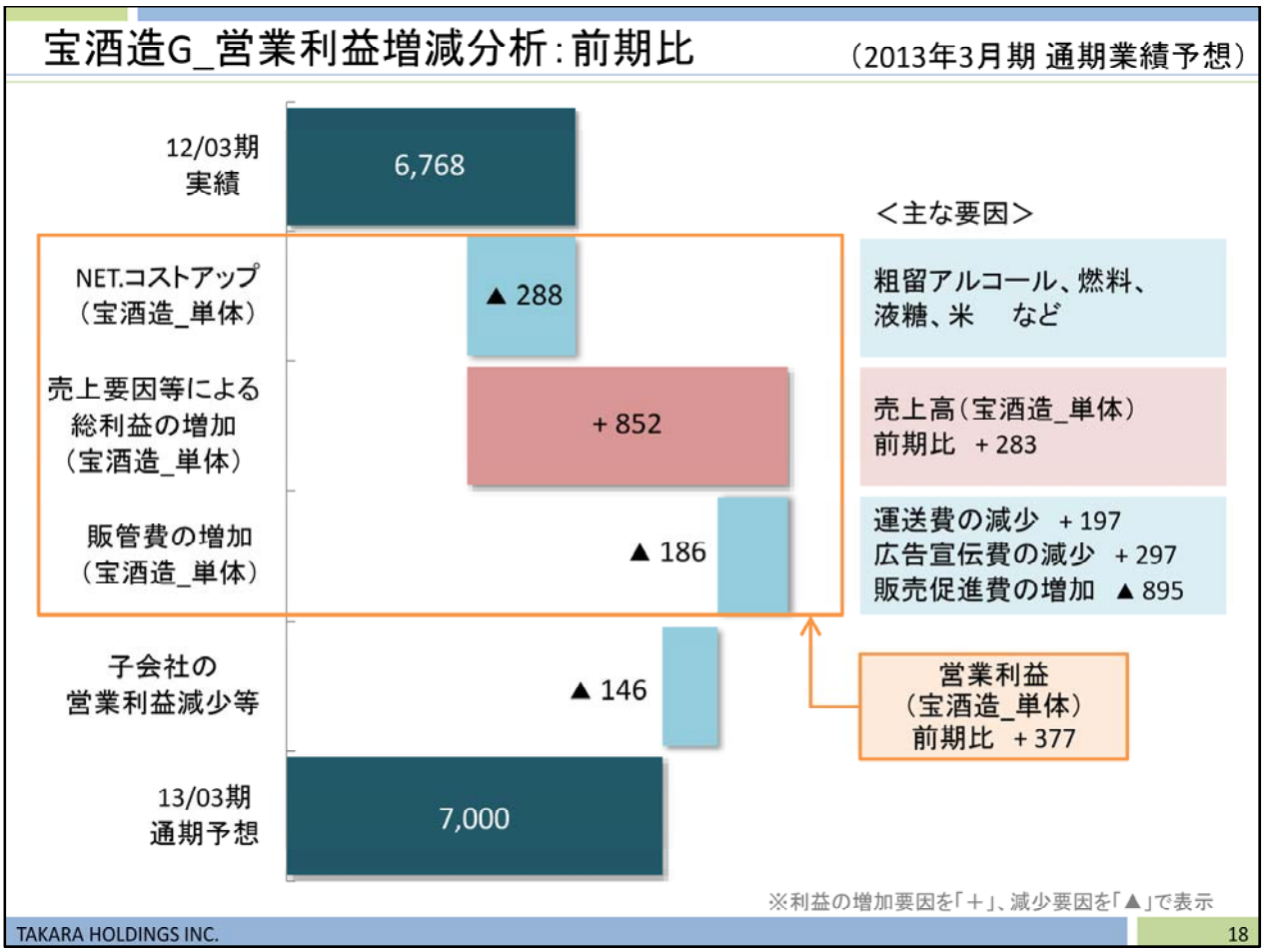
＜ソフトアルコール飲料＞	前期比	期初計画比
焼酎ハイボール	+ 1,424	▲ 380
直搾り	▲ 1,134	▲ 333

＜清酒＞	前期比	期初計画比
天	+ 824	+ 383
豪快	+ 365	+ 80

＜その他＞	前期比	期初計画比
フーデックス	+ 350	+ 194
物流	+ 1,877	+ 688

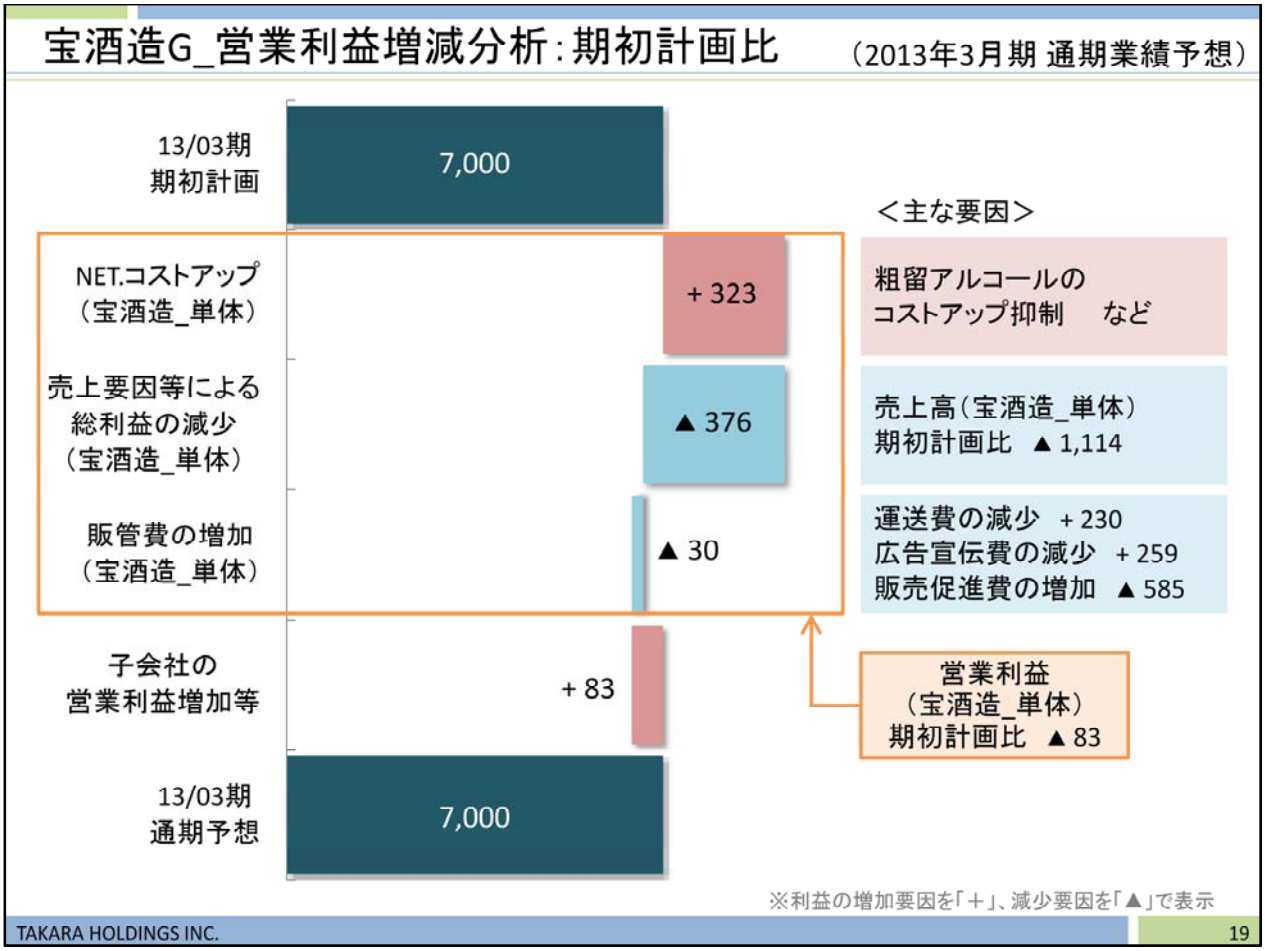
TAKARA HOLDINGS INC. 17

• 売上高の主な増減要因は、ご覧の通りです。



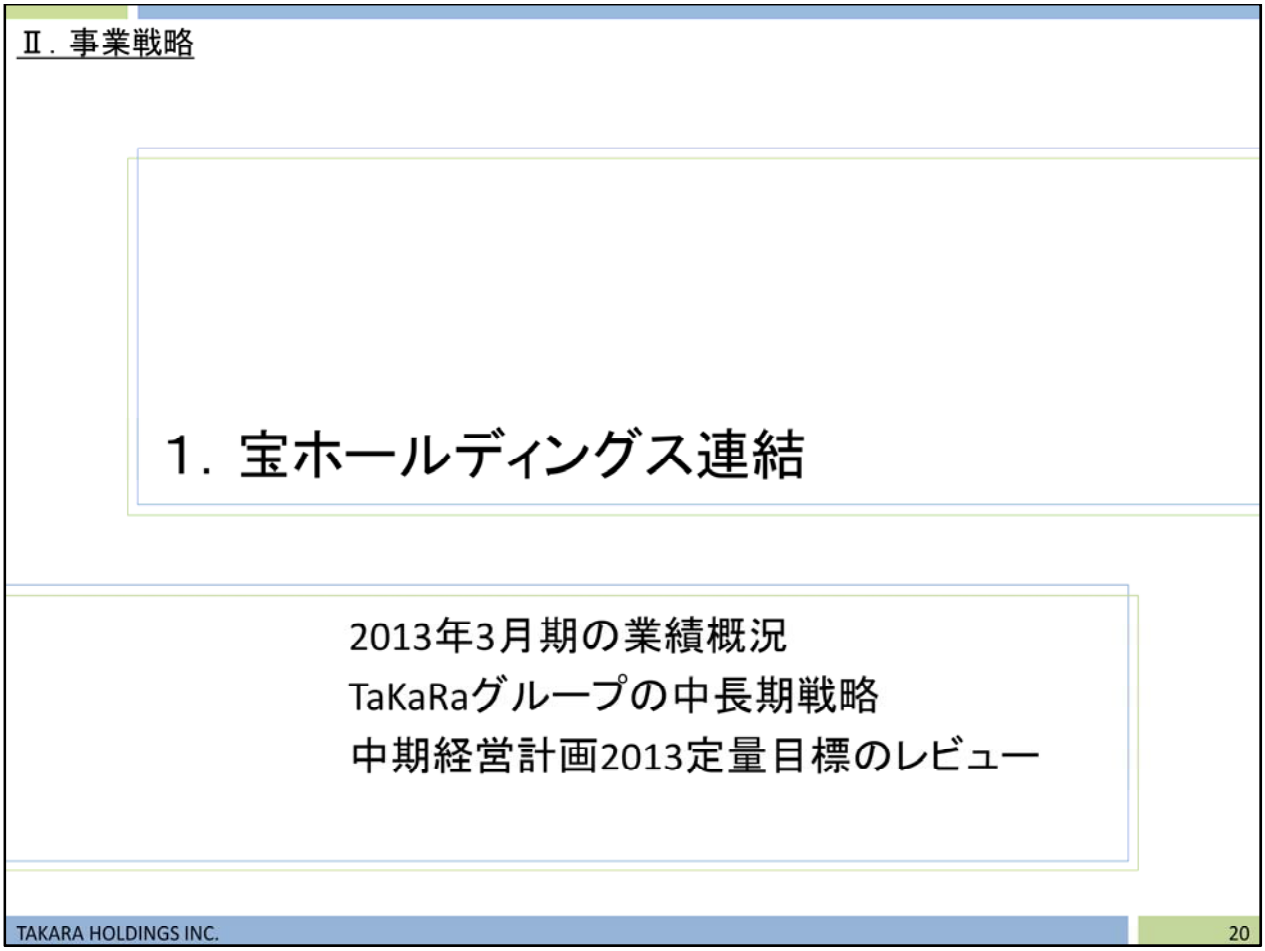
- 前期比での営業利益の増減について説明いたします。

- 原価面では、粗留アルコール、燃料、液糖、米などの高騰により、コストダウンと差し引いた、ネットのコストアップは288百万円となる見込みです。
- 売上の増加や商品構成の変化、価格改定への取り組みなどによる総利益の増加は852百万円となる見込みであり、販管費は、販売促進費を中心に186百万円増加するものの、宝酒造単体の営業利益は前期比377百万円の増益となる見通しです。
- その結果、宝酒造グループの営業利益は前期比231百万円増益の7,000百万円となる見通しです。



- 期初計画比での営業利益の増減について説明いたします。

- 原価面では、粗留アルコールのコストアップ抑制などにより、ネットのコストアップは期初計画を323百万円下回る見込みです。
- 売上要因等による総利益の減少は376百万円となる見込みです。
- その結果、宝酒造単体の営業利益は期初計画を83百万円下回りますが、宝酒造グループの営業利益は、期初計画の7,000百万円を据え置いております。



【第Ⅱ部　発表者:代表取締役社長　柿本 敏男】

• 当期の進捗状況について確認した後、主に戦略面について説明させていただきます。

宝HLD連結_業績概況

（2013年3月期 第2Q累計実績・通期業績予想）

（単位：百万円）	13/03期 2Q累計実績	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)	13/03期 通期予想	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
宝酒造G	84,909	1,209	1.4	178,000	―	―
タカラバイオG	9,013	▲ 549	▲ 5.7	20,700	▲ 399	▲ 1.9
宝ヘルスケア	1,135	▲ 114	▲ 9.1	2,000	▲ 250	▲ 11.1
その他	653	65	11.1	1,500	50	3.4
売上高	95,711	611	0.6	202,200	▲ 600	▲ 0.3
宝酒造G	2,014	214	11.9	7,000	―	―
タカラバイオG	423	10	2.5	1,600	0	0.0
宝ヘルスケア	▲ 3	▲ 6	―	▲ 30	▲ 60	―
その他	464	80	21.0	930	60	6.9
営業利益	2,899	299	11.5	9,500	―	―

- 売上高は、タカラバイオグループおよび宝ヘルスケアにおいて期初計画を下回り、連結売上高も期初計画を下回るが、過去最高となる2,000億円台を達成できる見込み。
- 営業利益は、宝酒造グループおよびタカラバイオグループにおいて、順調に進捗しており、期初計画を達成できる見込み。

TAKARA HOLDINGS INC. 21

- 第2四半期累計期間の業績と、11月5日公表の通期業績予想について確認します。

- 宝酒造グループは、期初計画を上回る進捗で推移していますが、下期を少し強めに見た期初計画であったため、通期の予想は変更しておりません。
- タカラバイオグループは、研究用試薬について前期比10%増収の売上目標を立てておりましたが、これが前期比7%増収と、期初計画を下回る見込みとなり、通期の売上予想を下方に修正しました。一方、原価率の改善などにより、営業利益は期初計画を達成できる見込みです。
- 宝ヘルスケアは、黒字化を計画していましたが、健康食品の売上が伸び悩み、当期の黒字化は厳しい状況となりました。来期、黒字化に再チャレンジしたいと考えています。

- これら、各グループの状況を受け、連結売上高は期初計画を下回る見込みですが、過去最高となる、TaKaRaグループ初の2,000億円台の達成に向けて引き続き取り組んでまいります。
- 連結営業利益は、期初計画を必達目標に、さらなる上積みを目指してまいりたいと考えております。

TaKaRaグループの中長期戦略

TaKaRaグループ・ビジョン2020（2011年度～2020年度）	経営目標	国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する。

TaKaRaグループ中期経営計画2013（2011.04~2014.03）

基本方針	「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大する。
定量目標	2014年3月期　連結売上高 2,000億円以上、連結営業利益 100億円以上 海外売上高比率 10%以上、成長事業＋育成事業売上高比率 25%以上

事業の位置付けと事業方針

基盤事業	●国内酒類事業	中核事業として収益力の強化に取り組み、グループの成長を支える。
成長事業	●海外酒類事業、日本食材卸事業 ●調味料・酒精事業 ●遺伝子工学研究事業	成長が見込まれる市場で積極的に事業拡大を図り、グループ全体の成長を牽引する。
育成事業	●健康食品事業 ●遺伝子医療事業	成長が見込まれる市場で次期の成長事業化を目指し、事業基盤の確立に取り組む。

風土・人財の育成　グループ経営基盤の強化　社会・環境行動の推進

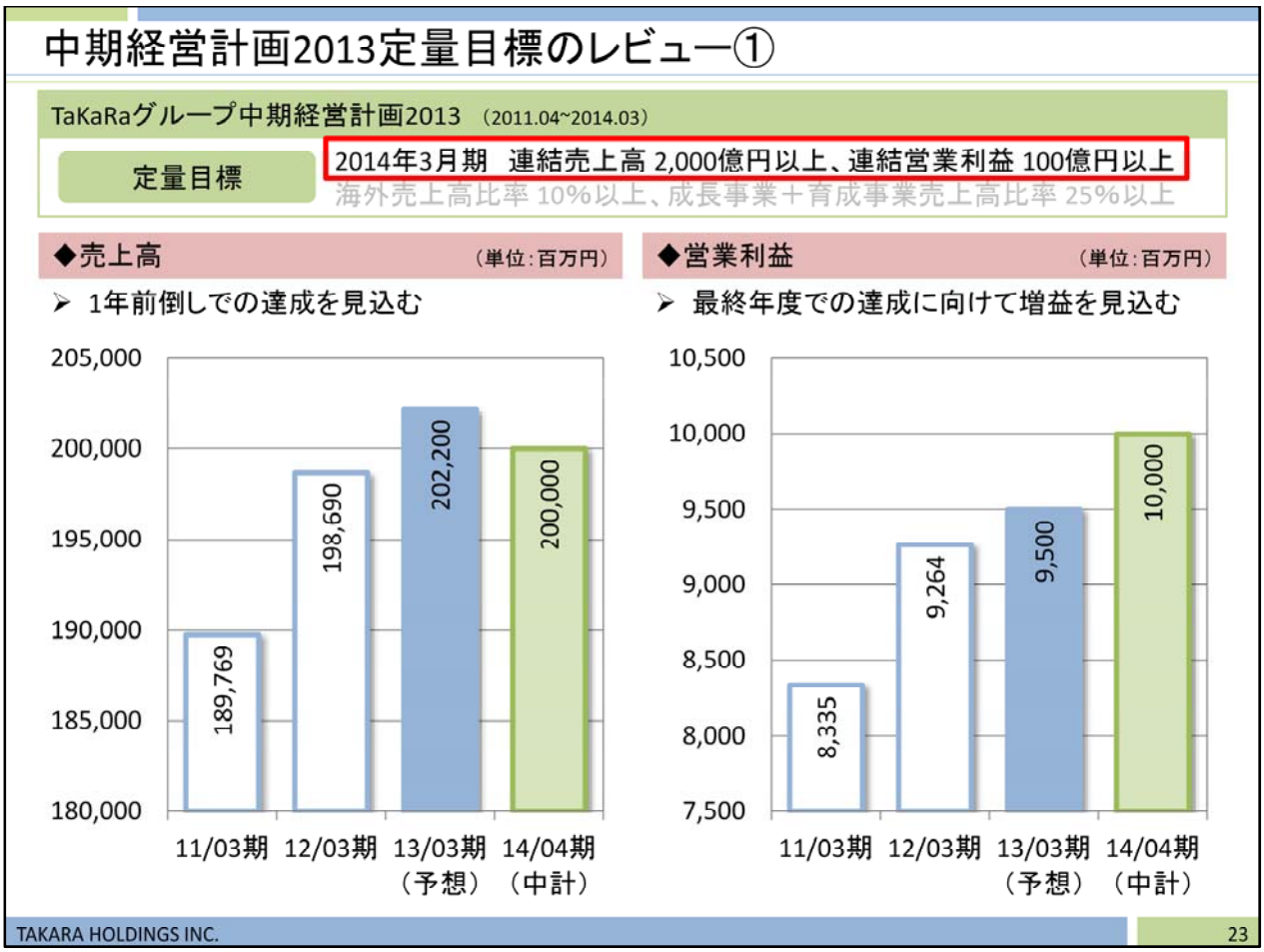
財務方針	健全な財務体質を維持しながら、成長・育成事業への投資と、積極的な株主還元を実施し、ROE（自己資本利益率）の向上を目指す。

TAKARA HOLDINGS INC.　22

- 昨年4月からスタートしている長期経営ビジョンと、中期経営計画について確認します。

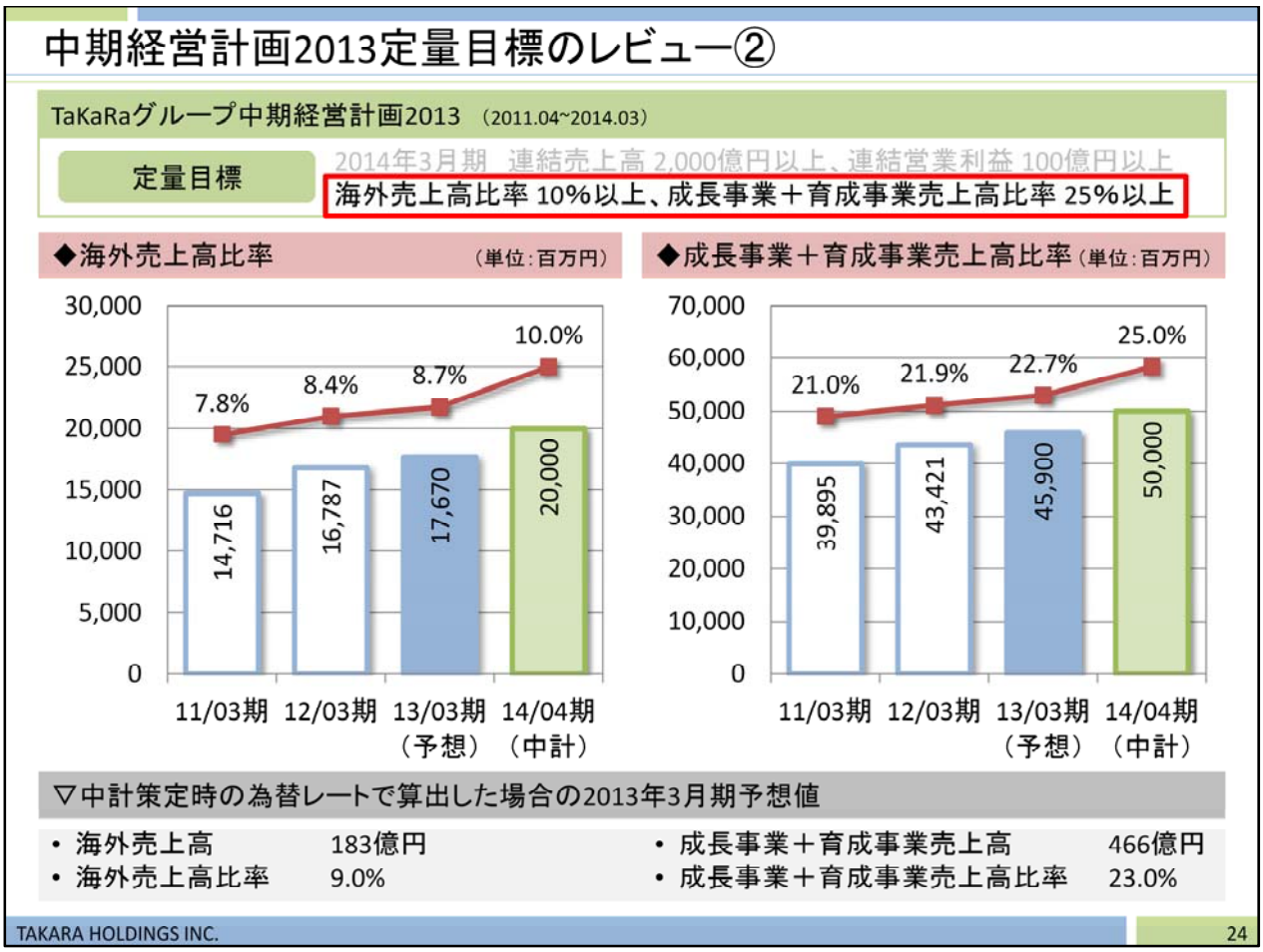
- 長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」では、『国内外の、強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する』ことを経営目標に掲げています。

- 「TaKaRaグループ中期経営計画2013」では、『「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大する』ことを基本方針に掲げ、定量目標として、2014年3月期の売上高2,000億円以上、営業利益100億円以上を目指すとともに、海外売上高比率10%以上、成長事業と育成事業の売上高比率25%以上を目指しています。



- 中期経営計画の定量目標に対する進捗状況を確認します。

- 売上高は、最終年度の目標である2,000億円以上を当期に達成できる見込みです。
- 営業利益は、最終年度となる来期の業績予想において100億円を掲げられるよう、引き続き増益に取り組んでまいります。



• 海外売上高と、成長事業および育成事業の売上高については、為替レートの変動による売上高の目減りや、連結売上高が中計2年目で2,000億円を達成する見込みであることが影響し、目標とする比率までストレッチがありますが、それぞれ順調に事業拡大を進めておりますので、これをさらに加速してまいりたいと考えております。

2. 宝酒造グループ

2013年3月期の業績概況
国内の事業環境と事業戦略
海外の事業環境と事業戦略

• 宝酒造グループについて、業績の概況と事業戦略を説明いたします。

宝酒造G_業績概況

（2013年3月期 第2Q累計実績・通期業績予想）

（単位：百万円）	13/03期 2Q累計実績	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)	13/03期 通期予想	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
焼酎	35,817	217	0.6	71,600	▲ 1,200	▲ 1.6
清酒	7,903	103	1.3	22,800	1,000	4.6
ソフトアルコール飲料	13,463	▲ 936	▲ 6.5	26,400	▲ 1,000	▲ 3.6
その他酒類	5,404	404	8.1	10,300	▲ 200	▲ 1.9
本みりん	6,928	128	1.9	14,900	100	0.7
その他調味料	3,676	▲ 23	▲ 0.6	7,900	▲ 100	▲ 1.3
原料用アルコール等	3,223	623	24.0	6,900	700	11.3
その他	8,490	690	8.9	17,200	700	4.2
売上高	84,909	1,209	1.4	178,000	ー	ー
営業利益	2,014	214	11.9	7,000	ー	ー

- 2Q累計実績
  - 売上高は、原料用アルコールや、その他の部門（日本食材卸事業、物流など）を中心に期初計画を上回った。
  - その結果、営業利益も期初計画を上回った。
- 通期予想
  - デフレ下の厳しい営業環境を考慮し、期初計画を据え置く。

TAKARA HOLDINGS INC. 26

- 第2四半期累計期間の売上高は、焼酎、清酒、その他酒類、本みりん、原料用アルコール、および、その他の部門のフーデックスや物流で期初計画を上回り、その結果、営業利益も期初計画を上回りました。
- 通期の業績予想については、もともと期初の計画段階で下期を少し強めに見ていましたが、足元の経済状況を鑑みると、下期もデフレ下の厳しい営業環境が続くことが予想されるため、通期では売上高・営業利益ともに期初計画を据え置いております。

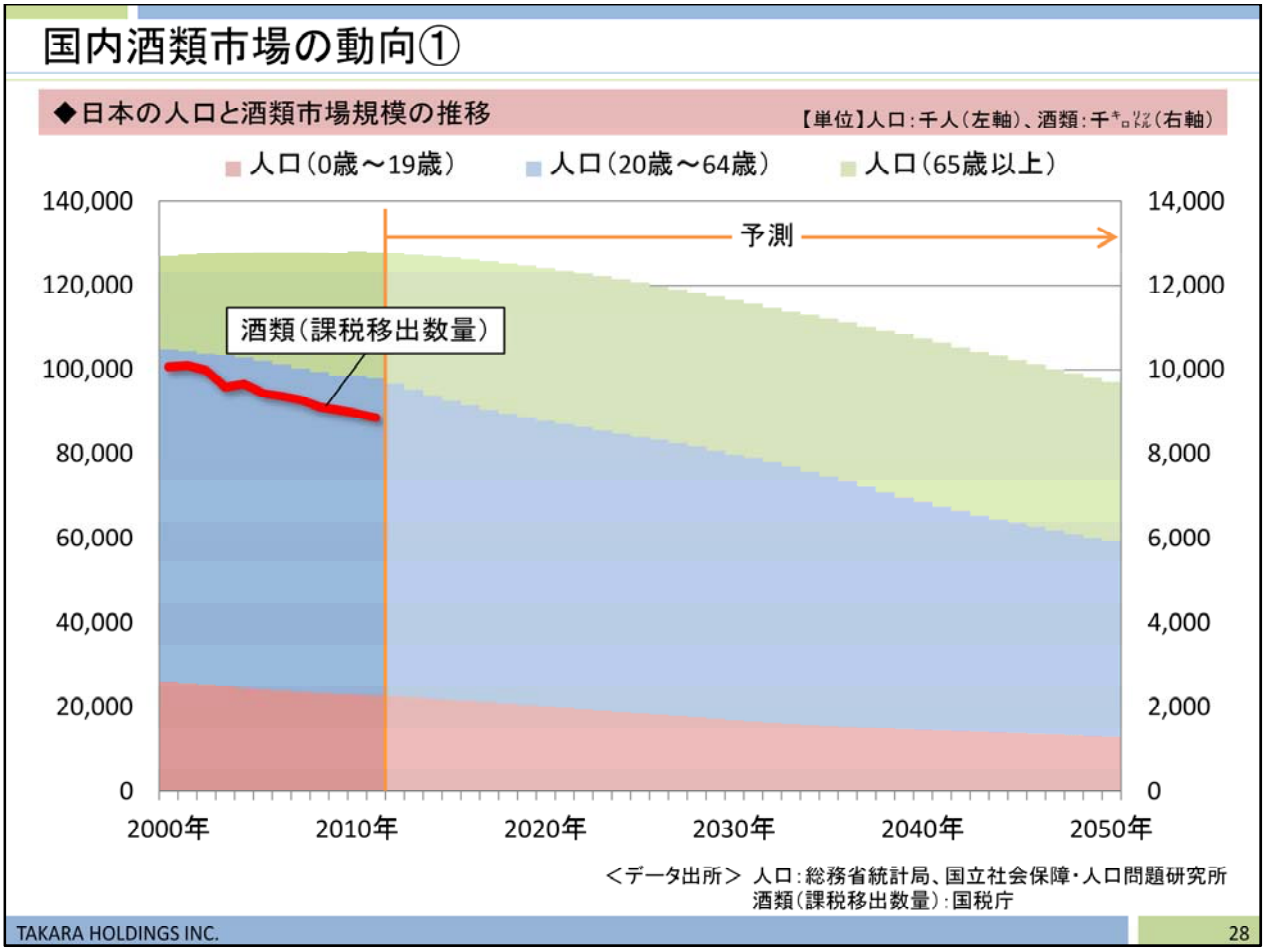
2. 宝酒造グループ

2013年3月期の業績概況

国内の事業環境と事業戦略

海外の事業環境と事業戦略

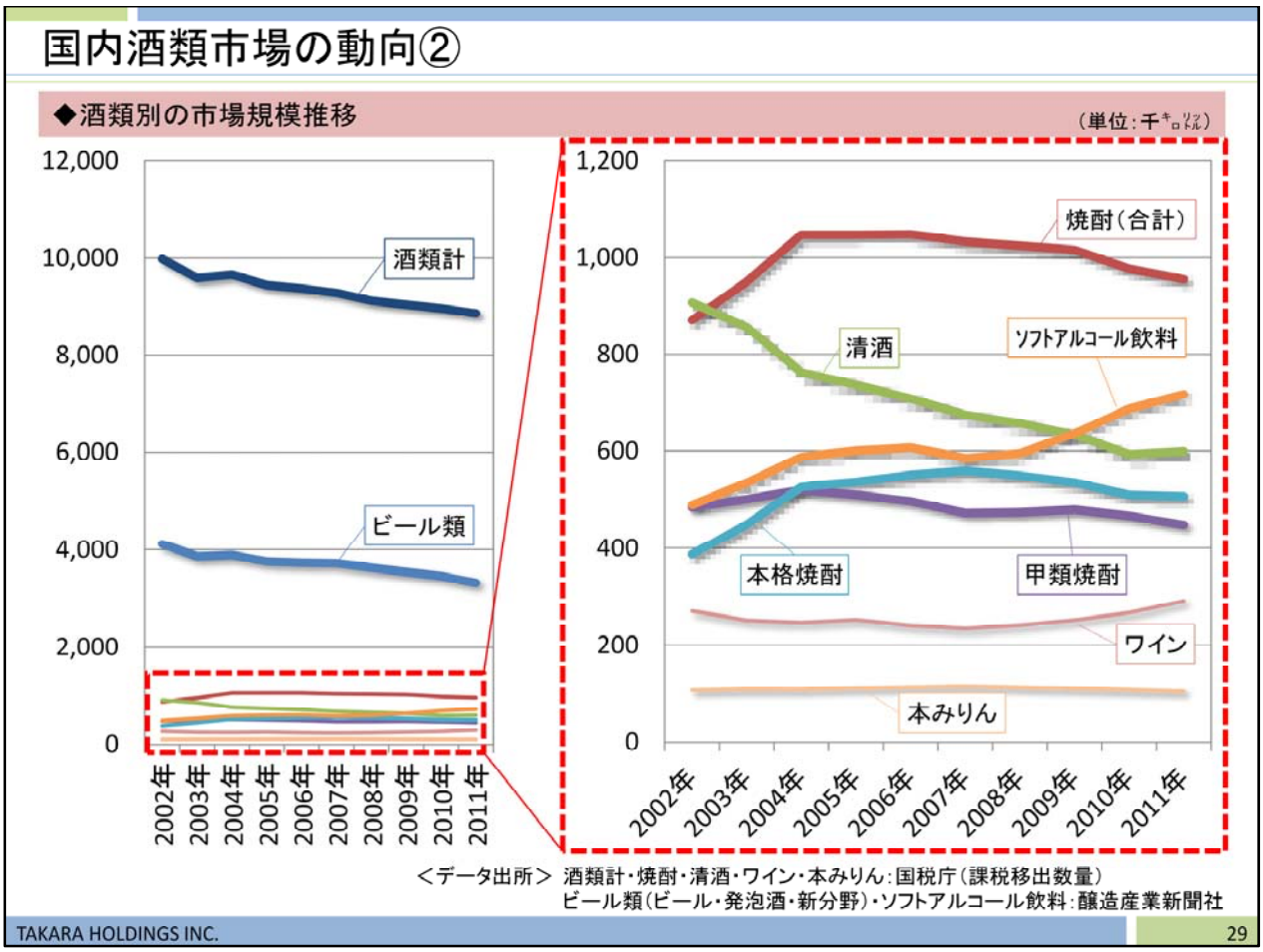
- 宝酒造グループの事業戦略について、国内と海外のそれぞれの事業環境を踏まえて説明いたします。
- まずは、国内の事業環境と事業戦略です。



- こちらのグラフは、日本の人口動態と酒類の課税移出数量の総量を表したものです。

- 人口はピークアウトし、酒類の市場も縮小傾向にあります。
- 今後も人口は減少し続けることが予想されるため、国内の酒類市場は漸減傾向が続くものと考えております。

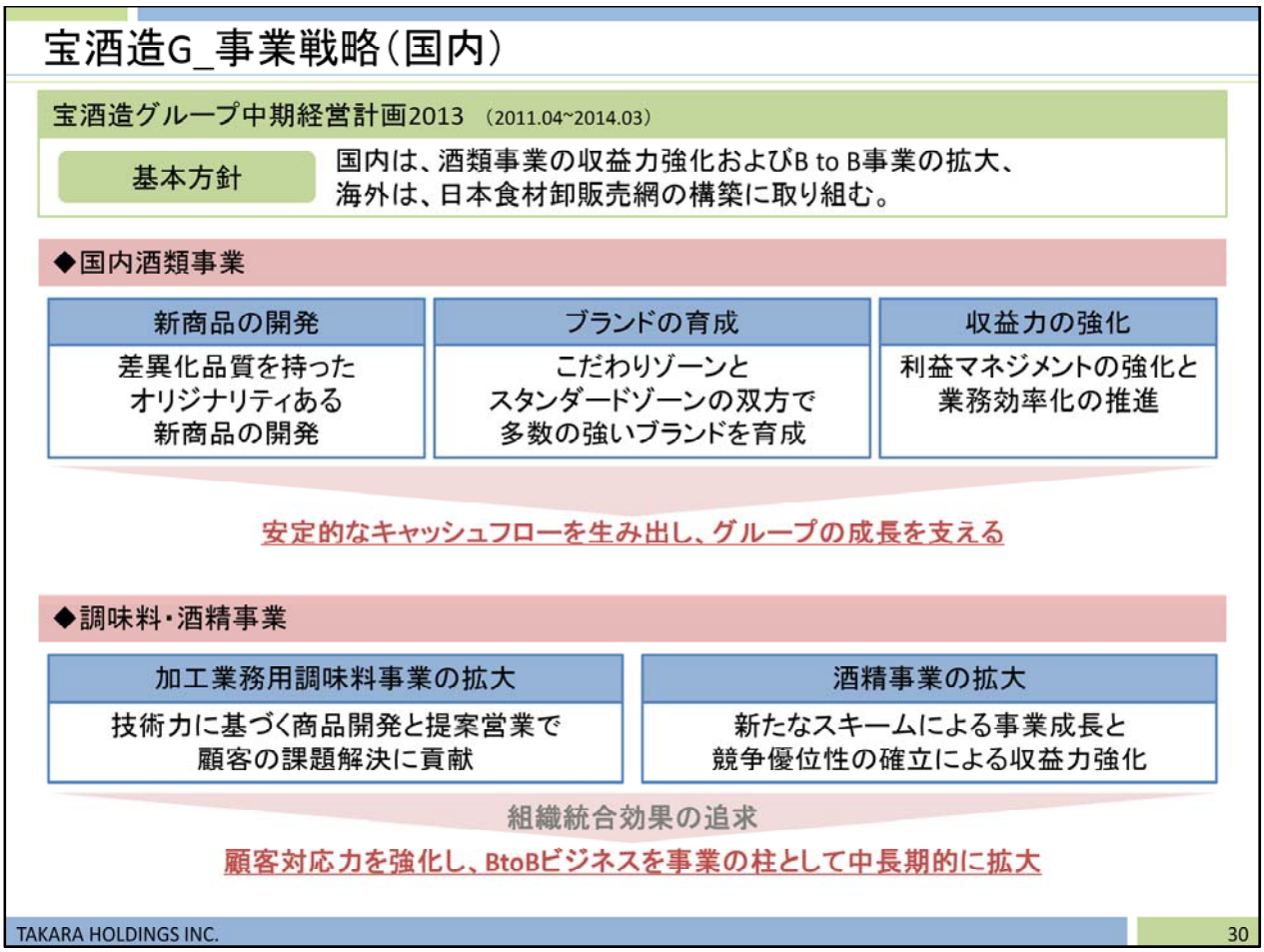
- しかしながら、このような状況においても、独自の技術で差異化された商品を開発・育成することで、消費者の皆様の支持を得て売上を伸ばすことができるものと考え、日々、商品開発と育成に注力しております。



- こちらのグラフは、酒類別の市場規模の推移を表したものです。

- 酒類の総量と、ビール類は減少傾向にあります。焼酎は、2004年頃までの本格焼酎ブーム以降、漸減傾向にあります。清酒は、長らく減少し続けていましたが、2011年は震災からの復興需要もあり、前年を若干上回りました。ソフトアルコール飲料は、増加傾向にあります。ワインは、ポリフェノールブームの頃よりは減っていますが、最近は再び増加傾向にあります。本みりんは、横ばいが続いています。

- このような市場環境において、宝酒造は、甲類焼酎と本みりんでトップのシェアを持っていますが、他の酒類ではトップではありません。
- 酒類の総量は、今後も減少していくと考えておりますが、トップではない酒類があるということは、まだ伸ばす余地があるということです。
- また、トップブランドの商品を複数持つことによって、厳しい市場環境で勝ち残り、確固たる収益基盤を築くことができると考えております。

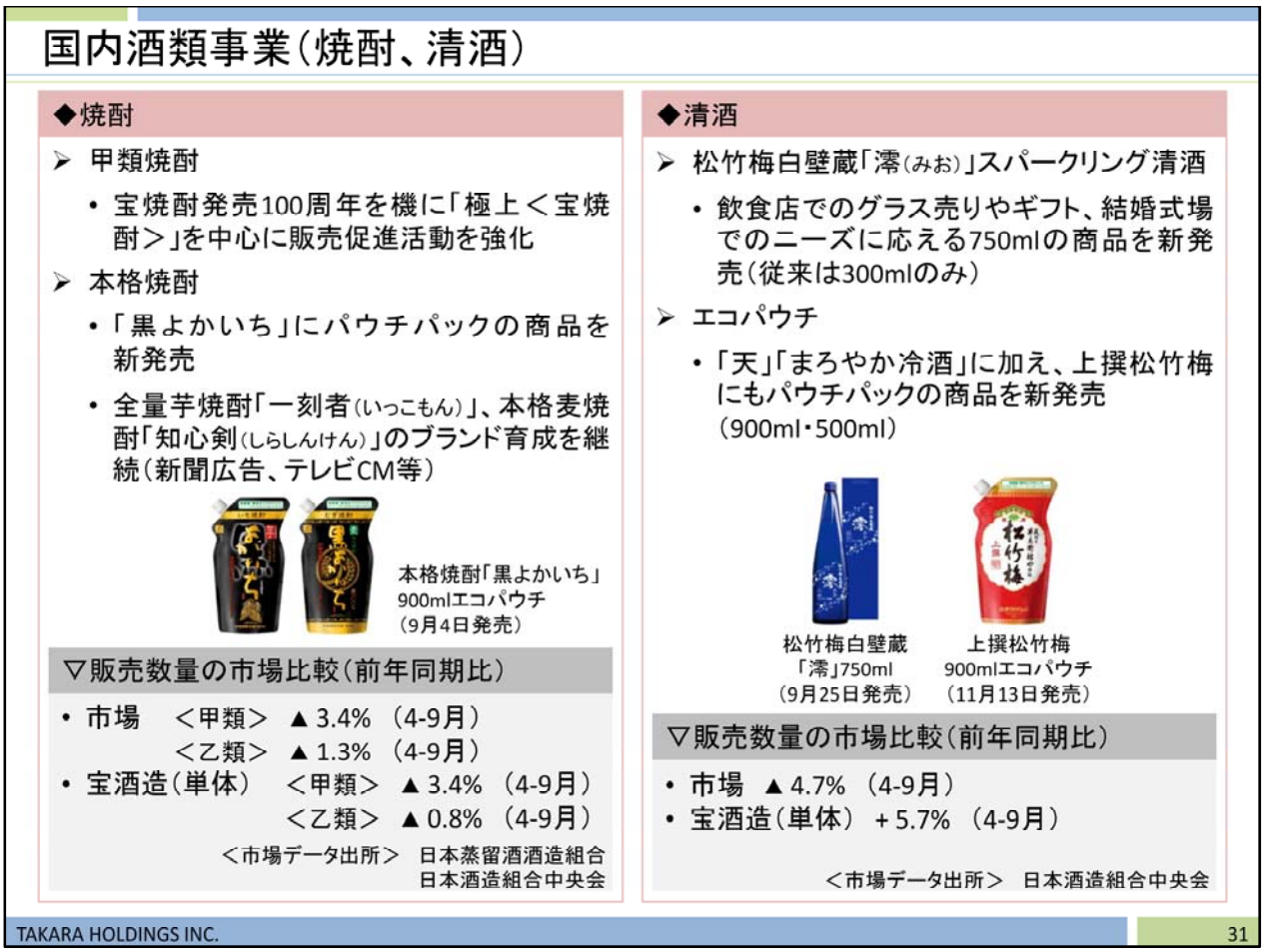


- 宝酒造グループの国内における事業戦略を確認します。

- 中期経営計画では、国内は、酒類事業の収益力強化およびB to B事業の拡大を目指しています。

- 国内酒類事業では、新商品の開発、ブランドの育成、収益力の強化を三本柱に、安定的なキャッシュフローを生み出し、グループの成長を支えることを目指しています。

- B to B事業である調味料・酒精事業では、加工業務用調味料事業と酒精事業の、それぞれにおいて事業拡大を目指すとともに、シナジーを活かして、B to Bビジネスを事業の柱として中長期的に拡大することを目指しています。



- 国内酒類事業について、商品カテゴリー別の戦略を説明いたします。

＜焼酎＞

- 甲類焼酎では、宝焼酎発売100周年を機に、販売促進活動を強化しています。特に注力している「極上＜宝焼酎＞」は、前期比20%増と順調に売上を伸ばしています。
- 本格焼酎では、よかいちブランドの育成の一環として「黒よかいち」にパウチパックの商品を発売しました。よかいちシリーズでは「黒よかいち」が牽引し、売上は前期比19%増となっています。
- なお、上期は甲類焼酎では市場並みに、乙類焼酎では市場の動向を上回って推移しました。

＜清酒＞

- スパークリング清酒「澪」において、750ml入りの商品を発売しラインナップを強化しました。販売ルートは300mlと同様に、飲食店、百貨店、通信販売限定です。
- また、「天」と「まろやか冷酒」に加えて、上撰松竹梅にもパウチパックの商品を発売します。エコパウチは、冷蔵庫の空いた隙間などに収納しやすく、また分別の必要がないので捨てやすいということで支持されており、このエコパウチの上乗せもあって、「天」は前期比9%増と順調に売上を伸ばしています。
- なお、上期は「澪」や「天」に加え、飲食店ルート限定の「豪快」も好調に推移し、販売数量は前期比5.7%増と、市場が前年割れの中で順調に推移しました。下期も、この好調さを維持していきたいと考えています。

国内酒類事業（ソフトアルコール飲料、調味料）

◆ソフトアルコール飲料

- TaKaRa「焼酎ハイボール」
  - テレビCMや限定生産商品の発売などによりブランド育成を継続

「焼酎ハイボール」のテレビCM

- タカラcanチューハイ「直搾り」
  - 女性をターゲットにしたデザインリニューアルを実施

▽販売数量の市場比較（前年同期比）

- 市場　＋1.0%　（4-9月）
- 宝酒造（単体）　▲11.9%　（4-9月）

＜市場データ出所＞　日本洋酒酒造組合
発泡酒の税制を考える会

◆調味料

- 家庭用調味料
  - 本みりんで初めてパウチパックの商品を発売
  - 「料理のための清酒」エコパウチと合わせてパウチパックを提案

タカラ本みりん「醇良」
500mlエコパウチ
（8月28日発売）

「料理のための清酒」
500mlエコパウチ
（3月15日発売）

▽販売数量の市場比較（前年同期比）
～本みりん～

- 市場　＋2.4%　（4-9月）
- 宝酒造（単体）　＋0.6%　（4-9月）

＜市場データ出所＞　全国味淋協会

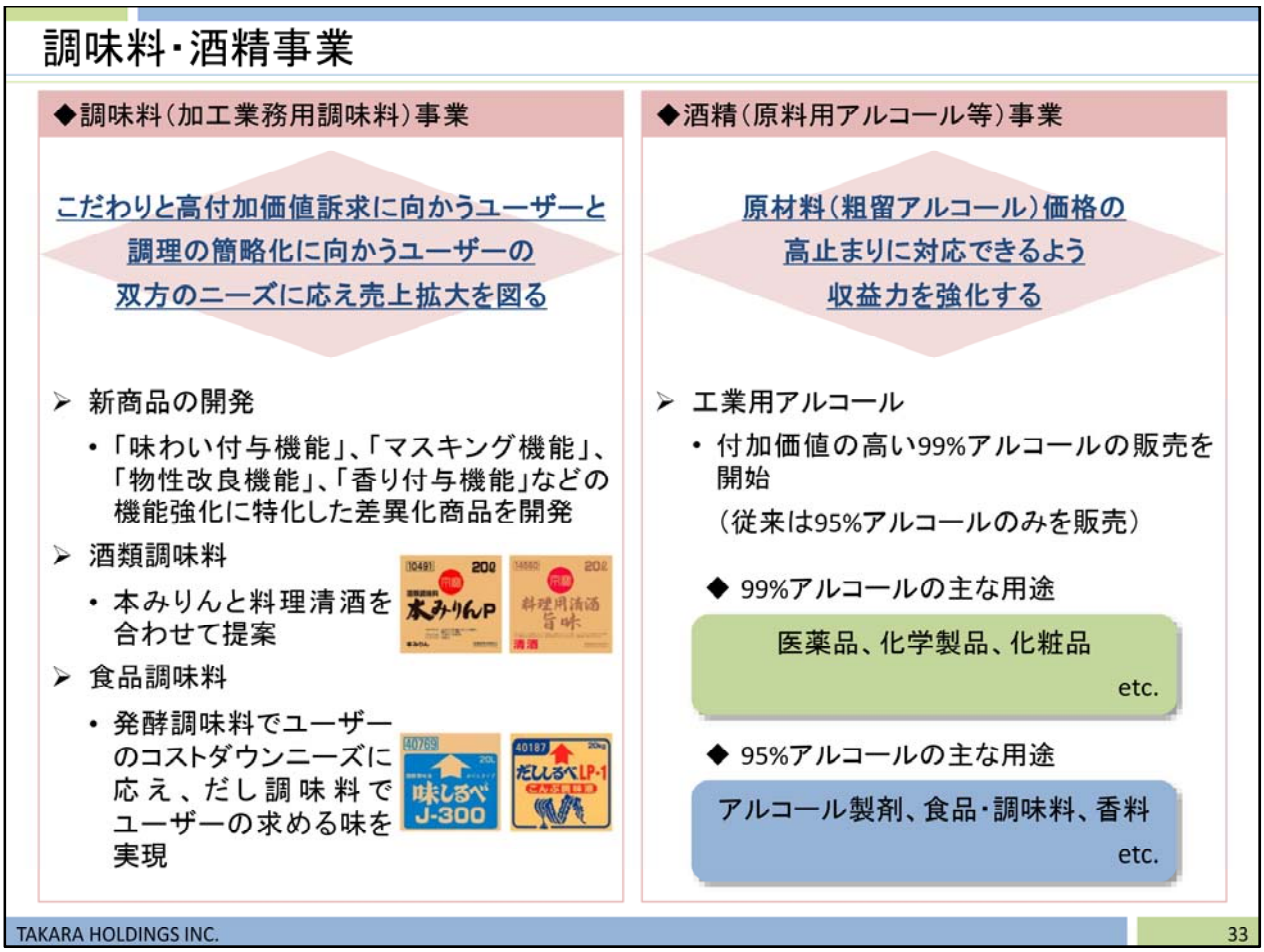
TAKARA HOLDINGS INC.　32

＜ソフトアルコール飲料＞

- 「焼酎ハイボール」が引き続き順調に売上を伸ばしており、前期比12%増となりました。
- 「直搾り」については、前期に一時的に売上が拡大したため、当期は売上が減少していますが、女性をターゲットに絞ったデザインリニューアルを行うなど、テコ入れ策を実施しています。
- ソフトアルコール飲料の販売数量は、市場の動向を下回っていますが、「直搾り」の反動減によるものであり、この反動のなくなる下期以降、売上を拡大してまいりたいと考えています。

＜調味料＞

- 本みりんにおいて、初めてパウチパックの商品を発売しました。既に発売済みの「料理のための清酒」と合わせて、便利なパウチパックの調味料としてご提案しています。
- 本みりんの販売数量は、市場の動向を下回っていますが、これは昨年、市場全体が低調であったのに対し、宝酒造がそれを上回って推移していたことの裏返しであり、押しなべて見ると、市場全体も、5割程度のシェアを持つ宝酒造も、大きな変動はないと見ています。

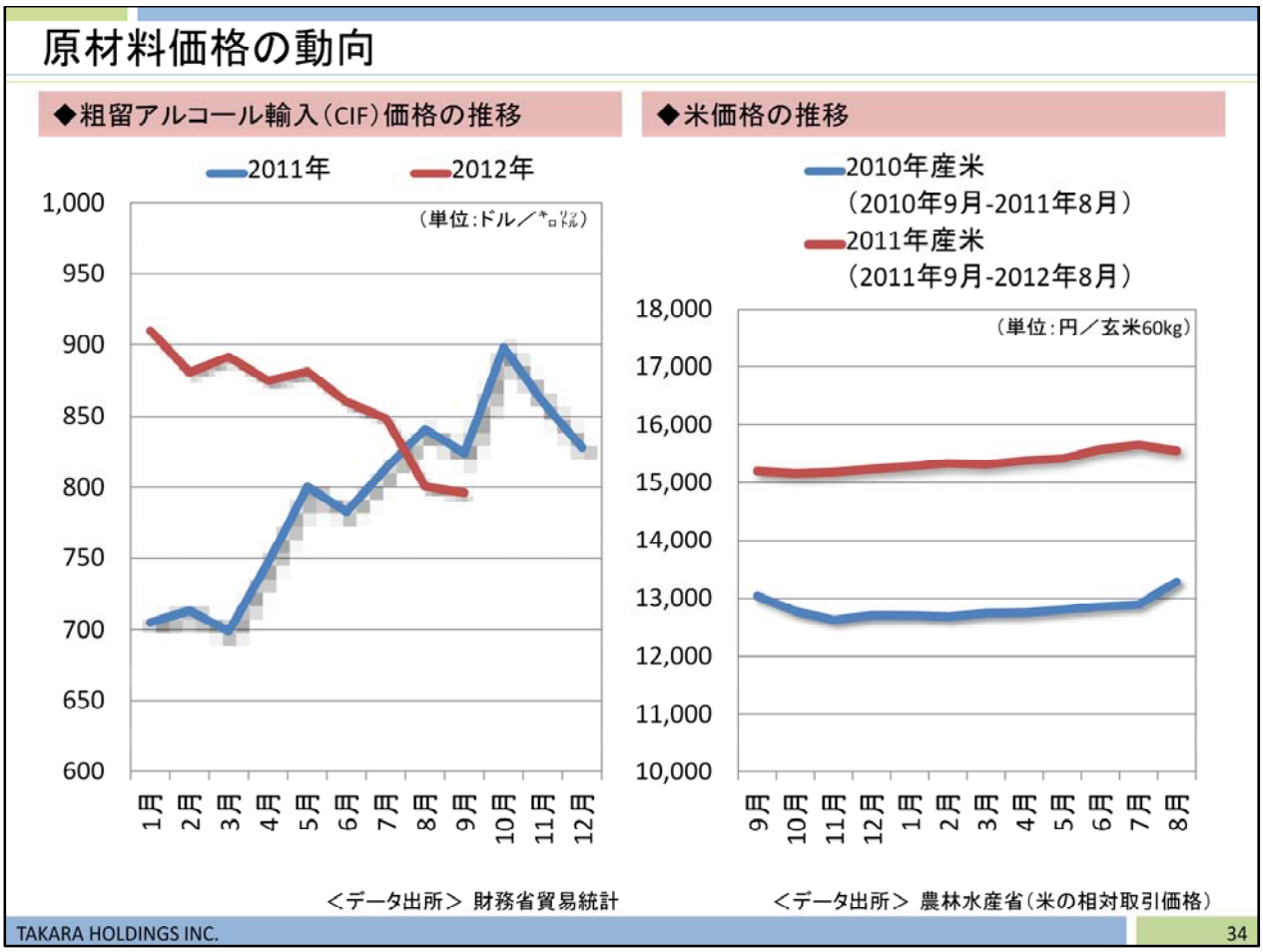


- B to B事業である調味料・酒精事業について説明いたします。

- 加工食品メーカーや、惣菜メーカーなどに調味料を販売する加工業務用調味料事業では、ユーザーのニーズにきめ細かく対応する商品をご提案し、売上の拡大を目指しています。
- 新商品の開発にあたっては、味わいを付与する機能や、食材の嫌な匂いをマスキングする機能などの、機能強化に特化した差異化商品を開発しています。
- 商品別の戦略については、酒類調味料では、本みりんと料理清酒を合わせて提案することができる強みを活かし、差異化を図っています。また、食品調味料では、発酵調味料でユーザーのコストダウンニーズに応え、だし調味料でユーザーの求める味を実現するご提案を行っています。

- 酒類メーカーや、食品メーカー、化粧品メーカーなどに、原料としてアルコールを販売する酒精事業では、99％の工業用アルコール市場に参入しました。まだ販売数量は少ないですが、取引先の拡大に向けて、営業活動を強化しております。

- B to B事業の調味料・酒精事業に関しては、これらの取り組みを通じて、堅調に売上を伸ばしていますが、グループの成長事業に位置づけていますので、より一層、成長を加速させるべく、さらなる成長戦略を検討してまいりたいと考えています。



- 原材料価格の動向について確認します。

- 左側のグラフは、粗留アルコールの価格動向を表したものです。
- 昨年末から今年の前半にかけて、高止まりの状態が続いてきましたが、レアル安の影響もあり、足元では少しずつ下落の傾向が見え始めています。
- しかしながら、依然として高止まりの状況でありますし、また、米国の干ばつでトウモロコシが不作となり価格が高騰するなど、粗留アルコールの価格動向に影響を与えかねない事象も発生しておりますので、引き続き注視が必要です。

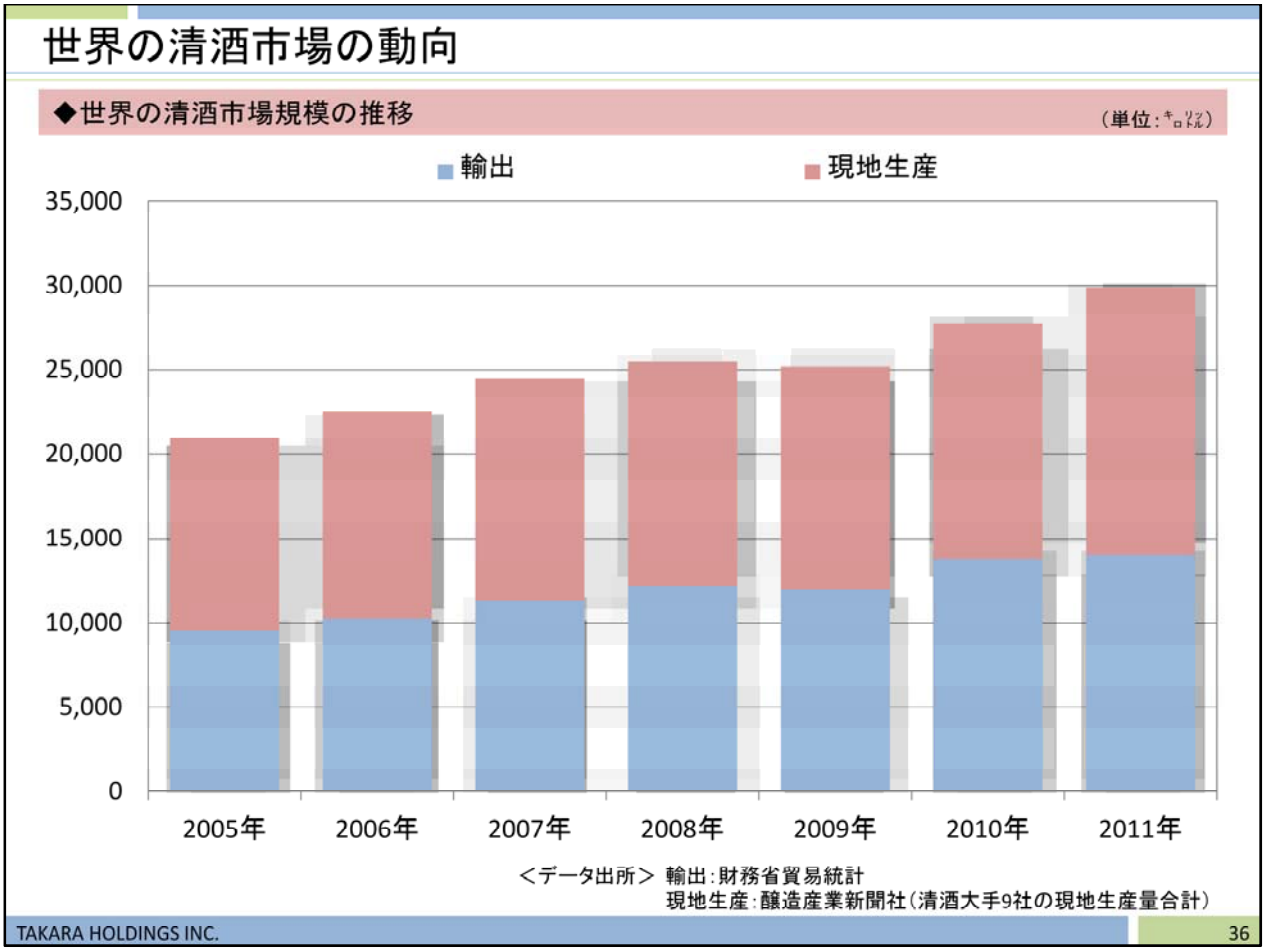
- 右側のグラフは、お米の価格動向を表したものです。
- 2011年産のものは2010年産に比べて、60キログラム当たり2,000円程度高い水準でありました。
- 2012年産のものは、これから本格的に出回ってきますが、2011年産に比べて、さらに1,000円程度高い水準となっているようであります。

- 原材料価格の動向につきましては、全体的に相場の下落は期待しづらい状況でありますが、価格動向に注視し、機を見た仕入れと、自助努力を通じたコストダウンによって、できるだけコストアップを吸収できるよう努めてまいります。

2. 宝酒造グループ

2013年3月期の業績概況
国内の事業環境と事業戦略
海外の事業環境と事業戦略

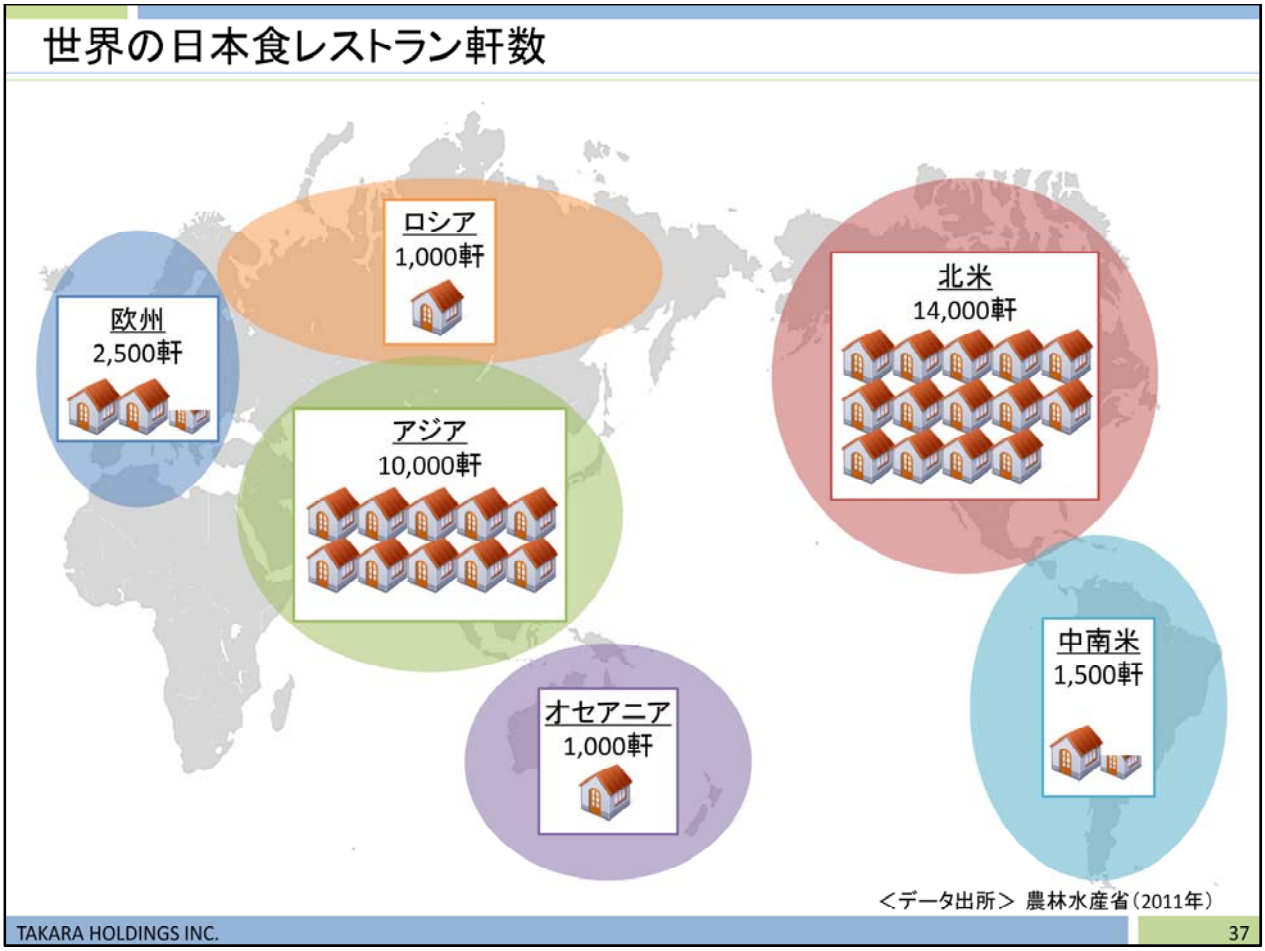
• 宝酒造グループの海外における事業環境と事業戦略について説明いたします。



- こちらのグラフは、日本から世界各地への清酒の輸出数量と、海外での清酒の現地生産数量の推移を表したものです。

- 2009年はリーマンショックの影響で横ばいとなりましたが、それを除くと、順調に拡大しています。

- 宝酒造では、日本からの輸出に加えて、米国と中国で現地生産を行っており、海外における清酒の最大の市場である米国では、3割程度のシェアを占めていると推定しています。



- こちらは、世界の日本食市場の規模をレストラン軒数で表したものです。

- 北米が14,000軒で最多となっています。
- 子会社のフーデックス社を通じて日本食材卸事業を行う欧州は2,500軒と、北米の規模には及びませんが、逆にこれから拡大が期待できる市場であると考えています。

宝酒造G_事業戦略（海外）

宝酒造グループ中期経営計画2013 （2011.04~2014.03）

基本方針	国内は、酒類事業の収益力強化およびB to B事業の拡大、 海外は、日本食材卸販売網の構築に取り組む。

◆海外事業

海外酒類事業の拡大	日本食材卸販売網の構築
日本食レストラン市場におけるシェアアップと 量販チャネルにおける間口拡大	海外における 販売網を構築・拡大

海外清酒市場で圧倒的シェアNo.1への基盤構築

- 日本食レストラン市場での販売拡大とシェアアップ
- 量販チャネルの取扱間口拡大
- 高品質な清酒を世界に向けて安定供給

販売網を構築・拡大し欧州市場における事業拡大を加速

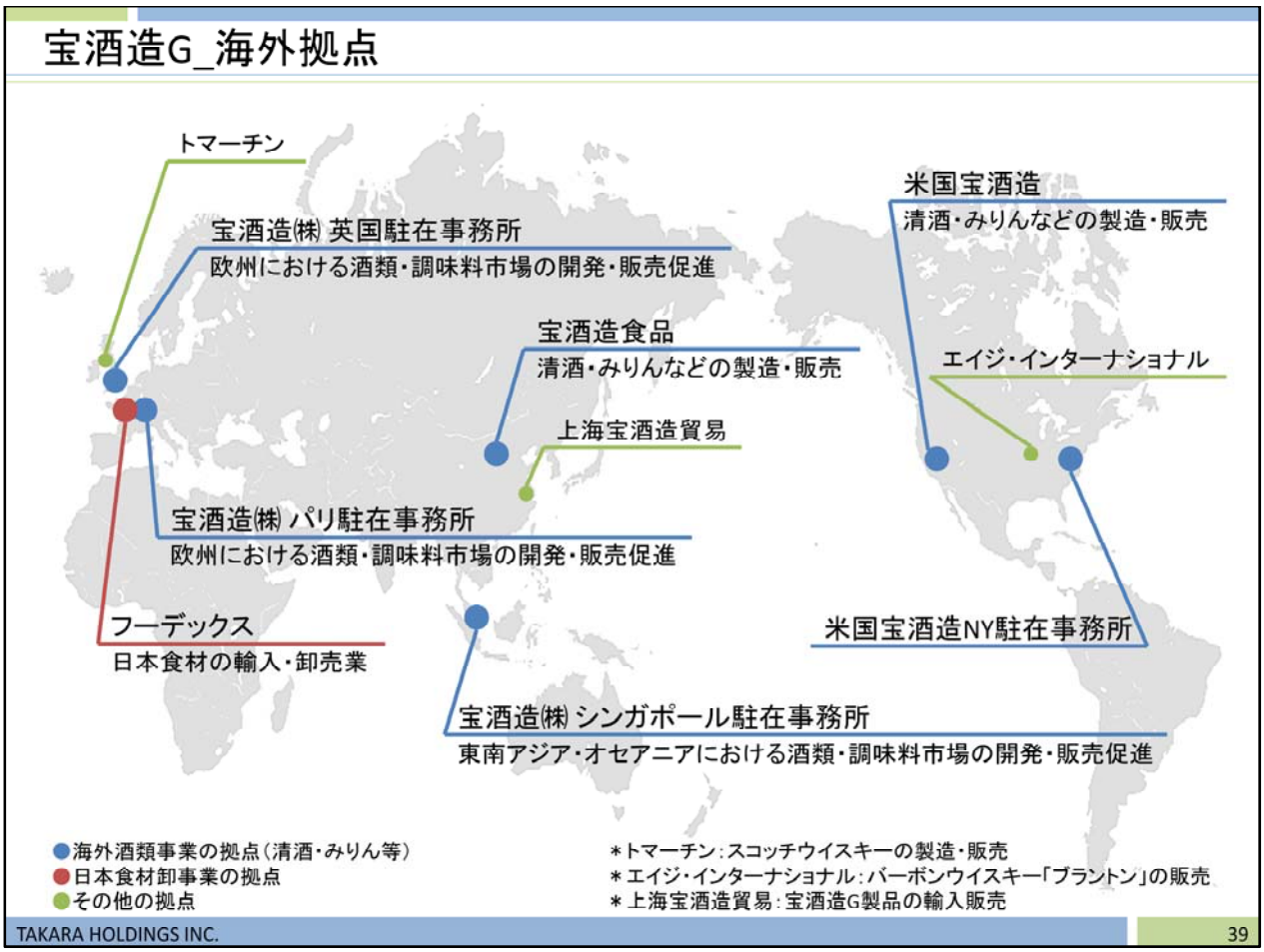
- フーデックス社による欧州流通網の拡大
- 欧州の日本食レストランへのアプローチ強化

海外酒類・日本食材卸の両事業を通じて日本食文化を世界に広め、海外事業の拡大を図る

TAKARA HOLDINGS INC. 38

- 宝酒造グループの海外における事業戦略を確認します。

- 海外で清酒やみりんを製造・販売する海外酒類事業と、欧州で日本食材の輸入卸を行う日本食材卸事業の両事業をそれぞれ拡大し、これらの事業を通じて日本食文化を世界に広めることで、宝酒造グループの海外事業全体の拡大を目指しています。



- こちらは、宝酒造グループの海外拠点を示したものです。

- 米国と中国には、現地で清酒やみりんの製造・販売を行う子会社があります。
- 日本食材卸事業については、2010年4月にフランスのフーデックス社の株式を取得して事業に参入いたしました。
- また、酒類・調味料の営業拠点として、英国駐在事務所、パリ駐在事務所に加えて、今年、シンガポール駐在事務所を開設し、東南アジアおよびオセアニア市場に向けた営業も強化しています。

米国宝酒造（海外酒類事業：米国）

◆米国宝酒造_業績概要　（単位：千USドル）

	13/03期 2Q累計実績	前期比		期初計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
売上高	13,302	787	6.3	10	0.1
営業利益	1,015	121	13.6	826	438.7
	13/03期 通期予想	前期比		期初計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
売上高	26,760	1,276	5.0	▲ 524	▲ 1.9
営業利益	2,123	980	85.8	665	45.7

- 2Q累計実績
  - 売上高は、清酒を中心に前期比増収となり、期初計画並の進捗。
  - 利益面では、コストダウンおよび販管費の削減により、営業利益は前期比増益となり、期初計画を上回った。
- 通期予想
  - 売上高は、清酒を中心に前期比増収を見込むが、加工用調味料を中心に期初計画を下回る見込み。
  - 利益面では、コストダウンおよび販管費の削減により、営業利益は前期比増益となり、期初計画を上回る見込み。

TAKARA HOLDINGS INC.　40

- 主な海外子会社の状況について説明いたします。

＜米国宝酒造＞

- 上期は清酒を中心に売上を伸ばし、利益面でもコストダウンなどが寄与して増益となりました。
- 通期では、売上高は期初計画を下回る見込みですが、営業利益は期初計画を上回る見込みであり、前期比では増収・増益を見込んでいます。

宝酒造食品（海外酒類事業：中国）

◆宝酒造食品_業績概要　（単位：千元）

	13/03期 2Q累計実績	前期比		期初計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
売上高	26,888	6,187	29.9	3,881	16.9
営業利益	2,770	2,249	431.7	2,151	347.3
	13/03期 通期予想	前期比		期初計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
売上高	52,746	400	0.8	3,524	7.2
営業利益	3,274	1,023	45.4	956	41.3

- 2Q累計実績
  - 飲食店の新規開拓等が順調に進み、売上高は、清酒・焼酎を中心に前期比増収となり、期初計画を上回った。
  - 売上高の順調な伸びに伴い、営業利益は、前期比増益となり、期初計画を上回った。
- 通期予想
  - 8月以降の反日感情の高まりの影響を受け、足元の売上高は減少しており、期初計画を上回るものの、前期並みの売上高となる見込み。
  - 利益面では、販管費（運送費・管理費）の増加を見込むが、営業利益は前期比増益となり、期初計画を上回る見込み。

TAKARA HOLDINGS INC.　41

＜宝酒造食品＞

- 上期は、清酒および焼酎の売上が好調で増収となり、それに伴い営業利益も大幅に増益となりました。
- 反日感情の高まりの影響から、9月以降の売上高は減少しておりますが、通期では、売上高は前期並み、営業利益は増益を見込んでおります。

フーデックス（日本食材卸事業：欧州）

◆フーデックス_業績概要　（単位：千ユーロ）

	13/03期 2Q累計実績	前期比		期初計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
売上高	22,359	4,333	24.0	1,489	7.1
営業利益	1,987	▲ 348	▲ 14.9	▲ 495	▲ 20.0

	13/03期 通期予想	前期比		期初計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
売上高	45,188	7,263	19.2	1,488	3.4
営業利益	4,761	2	0.1	▲ 650	▲ 12.0

- 2Q累計実績
  - 売上高は、新規取引先の開拓などが順調に進み、前期比増収となり、期初計画を上回った。
  - 利益面では、ユーロ安による調達価格の上昇、販管費の増加などにより、営業利益は前期比減益となり、期初計画も下回った。
- 通期予想
  - 売上高は、増収基調を維持し、前期比増収となり、期初計画を上回る見込み。
  - 利益面では、調達価格の上昇による売上総利益率の低下に加え、管理費（システム構築費）の前倒し発生などにより、営業利益は前期並となり、期初計画を下回る見込み。

フーデックスの拠点

TAKARA HOLDINGS INC.　42

＜フーデックス＞

- 新規取引先の開拓などによって、売上高を順調に伸ばすことができております。
- 利益面では、ユーロ安による調達価格の上昇、販管費の増加などにより、上期の営業利益は減益となりましたが、通期では前期並みとなる見込みです。
- ユーロ安による調達価格の上昇分につきましては、売値への反映を順次行っております。
- フーデックスは、フランスを中心に、イタリア、スイス、ベルギーなど、周辺諸国に販売エリアを拡大しており、各エリアで順調に取引先を増やしており、今後も売上高および営業利益を順調に伸ばしていくことができると考えております。

3. 宝ヘルスケア

宝ヘルスケアの概況

• 健康食品事業を行う宝ヘルスケアの概況について説明いたします。

宝ヘルスケアの概況

◆宝ヘルスケア_業績概要　（単位：百万円）

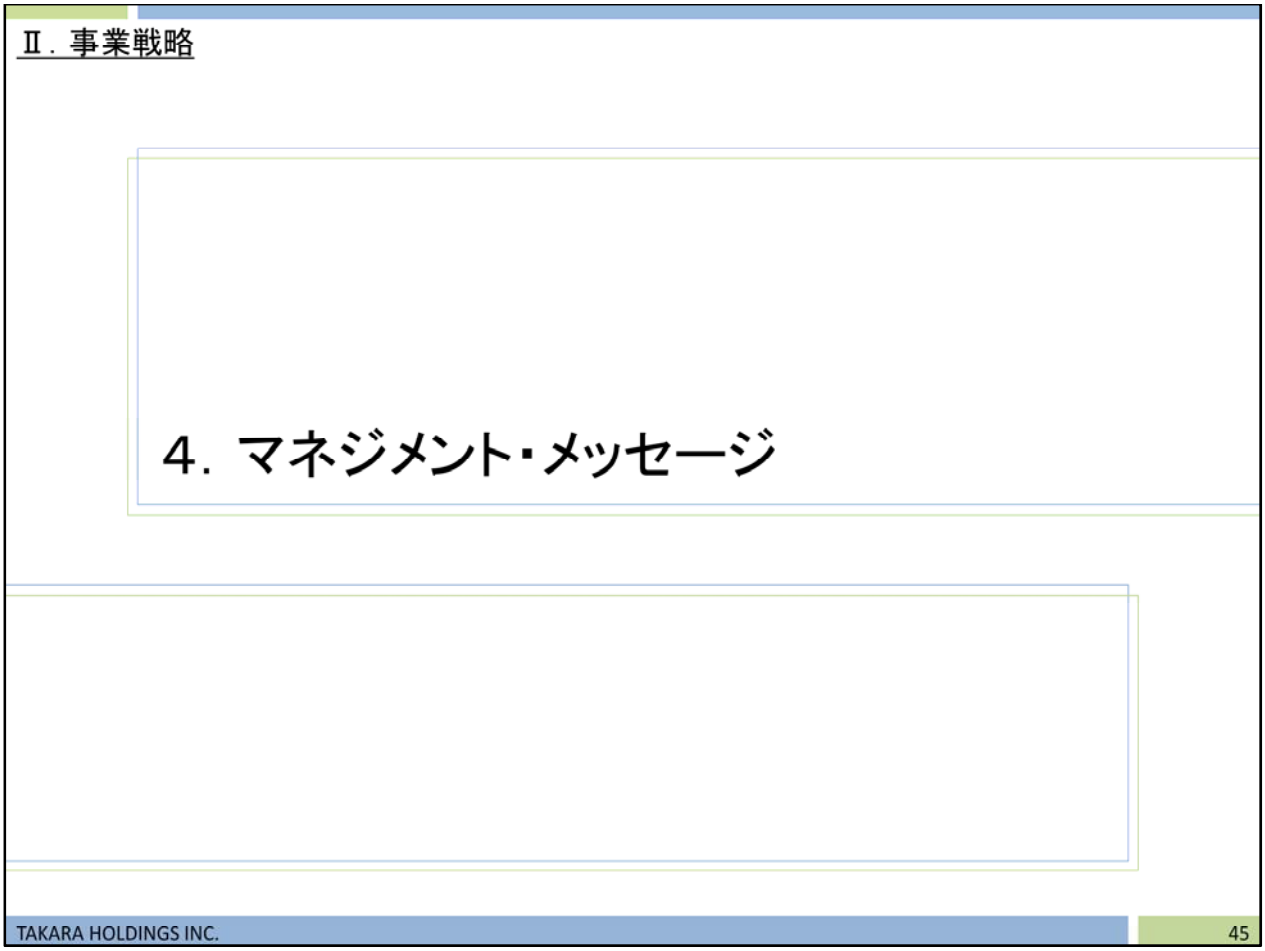
	13/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
ヘルスケア事業	608	27	4.8	▲ 41	▲ 6.3
その他	526	▲ 218	▲ 29.3	▲ 73	▲ 12.2
売上高	1,135	▲ 190	▲ 14.4	▲ 114	▲ 9.1
営業損失	▲ 3	83	―	▲ 6	―

	13/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
ヘルスケア事業	1,250	29	2.4	▲ 50	▲ 3.8
その他	750	▲ 367	▲ 32.9	▲ 200	▲ 21.1
売上高	2,000	▲ 338	▲ 14.5	▲ 250	▲ 11.1
営業損失	▲ 30	84	―	▲ 60	―

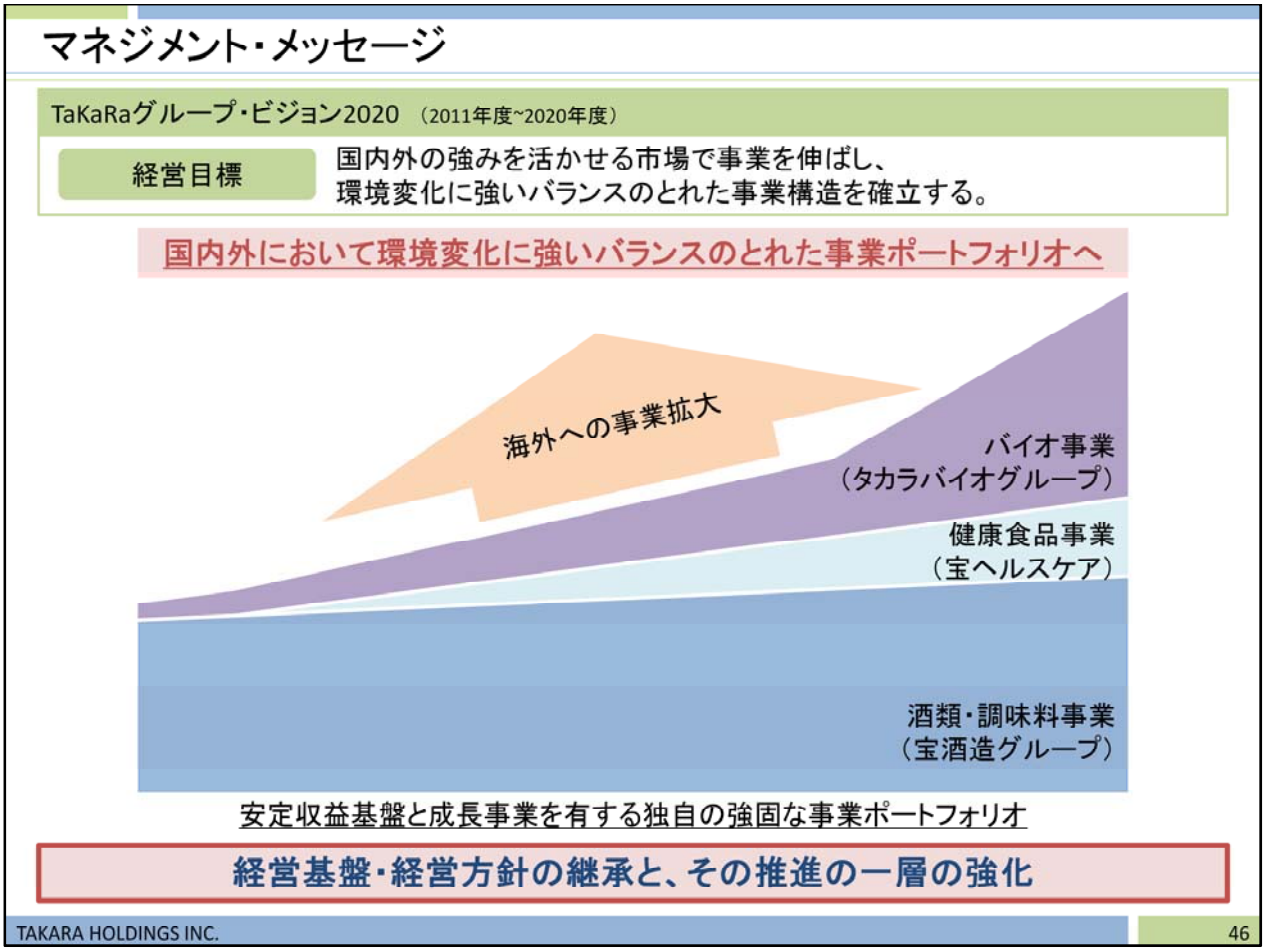
- 2Q累計実績
  - ヘルスケア（健康食品）事業は前期比増収となり営業損失は改善したが、主力のガゴメ昆布「フコイダン」関連製品が伸び悩み、期初計画を下回った。
- 通期予想
  - 期初計画では、黒字化を見込んでいたが、▲30百万円の営業損失となる見込み。

TAKARA HOLDINGS INC.　44

- 上期は、ヘルスケア事業の売上が前期を上回り、営業損失も改善しましたが、主力のフコイダンシリーズが低調であり、売上高・営業損失ともに期初計画を下回りました。
- 当期は黒字化を達成できない見通しとなりましたが、来期の黒字化に向けて、策を練ってまいりたいと考えております。



- 最後に、経営基盤・経営方針の継承と、その推進の一層の強化につきまして、少し述べさせていただきます。



- TaKaRaグループは、酒類・調味料事業という基盤事業と、バイオ事業と健康食品事業という有望な将来性のある成長・育成事業を併せ持つ、独自性の高い事業ポートフォリオを築き上げてきております。
- 今後は、国内外の強みを活かせる市場において、現在の事業ポートフォリオをさらに強化することで、より一層、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立することを目指しています。
- この方向性を示していますのが、長期経営ビジョンであり、その実現に向けた第一ステップが現在進行中の「TaKaRaグループ中期経営計画2013」であります。
- バイオ事業はTaKaRaグループの成長、および将来の成長を牽引する事業であります。
- しかし、TaKaRaグループにおける収益の柱、収益基盤は現在はあくまでも酒類・調味料事業を中心とする宝酒造グループであります。
- 今後も宝酒造グループの安定的な成長なしにはTaKaRaグループの企業価値向上は望めないと考えております。

- バランスのとれた事業ポートフォリオの実現のためには、宝酒造グループは、国内で安定的な収益を確保しながら海外の事業を拡大し、タカラバイオグループは遺伝子工学研究事業で利益成長を続けながら、将来の成長に向けた遺伝子治療の商業化を実現することが必要です。
- しかしながら、国内の酒類市場におきましては、少子高齢化、飲酒傾向の変化、デフレによる節約志向などにより、商品の多様化が進むとともに、数量が減少するという厳しい状況が続いています。
- 一方、海外では日本食文化の定着とともに、日本酒市場は拡大しつつあります。
- また、バイオにおきましては、技術の日進月歩は目覚ましく、商品のライフサイクルも短くなり、開発競争は激化しております。
- このように、市場環境は厳しいものがありますが、従来から取り組んでおりますように、独自の技術で差異化された、お客様が望まれる安全で高品質の商品・サービスを開発・育成することで、新たな成長の機会を手にすることができると確信しております。
- TaKaRaグループの先頭に立って、総力を結集して取り組んでまいります。

- 以上で、私からの説明を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

＜参考資料＞

宝HLD連結_包括利益計算書
宝HLD連結_BS概要・CF概要
為替前提（子会社P/L換算レート）
株主還元方針

宝HLD連結_包括利益計算書

（2013年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	11/03期 2Q累計実績	12/03期 2Q累計実績	増減
少数株主損益調整前四半期純利益	1,076	564	▲ 512
その他の包括利益合計	▲ 428	▲ 323	105
その他有価証券評価差額金	▲ 888	▲ 657	231
繰延ヘッジ損益	▲ 77	▲ 9	67
為替換算調整勘定	548	337	▲ 211
持分法適用会社に対する持分相当額	▲ 12	6	18
四半期包括利益	648	241	▲ 406
（内訳）			
親会社株主に係る四半期包括利益	447	▲ 1	▲ 448
少数株主に係る四半期包括利益	200	242	41

宝HLD連結_B/S概要：資産

（2013年3月期 第2Q末）

（単位：億円）	12/03末	12/09末	増減	主な増減理由
流動資産	1,260	**1,279**	18	
現金及び預金	308	**324**	15	TH ＋22.1　TS ▲5.8　TB ＋2.6
受取手形及び売掛金	507	**504**	▲2	TS ＋12.6　TB ▲14.0
有価証券	156	**136**	▲20	TH ＋10.0　TS ▲30.1
たな卸資産	244	**261**	16	TS ＋16.3
その他	43	**52**	8	
固定資産	713	**693**	▲20	
有形固定資産	419	**421**	1	当期の有形・無形固定資産の増減内訳
無形固定資産	52	**51**	▲1	新規取得　＋22.5　（TS ＋12.2　TB ＋7.6 ）
のれん	35	**34**	▲0	減価償却　▲20.5　（TS ▲14.4　TB ▲5.3 ）
その他	17	**16**	▲0	その他増減　▲1.4
投資その他資産	241	**220**	▲20	
投資有価証券	184	**164**	▲20	TH ▲19.7（評価減 ▲10.1　時価評価差額 ▲9.6 ）
その他	56	**56**	▲0	
資産合計	1,974	**1,972**	▲1	

宝HLD連結_B/S概要：負債・純資産

（2013年3月期 第2Q末）

（単位：億円）	12/03末	12/09末	増減	主な増減理由
流動負債	512	499	▲ 12	
支払手形及び買掛金	139	125	▲ 14	TS ▲ 3.7 TB ▲ 5.8
借入金・社債	100	98	▲ 2	第6回普通社債（2013年5月償還予定） +50.0 第8回普通社債（2012年9月償還） ▲ 50.0
その他	272	276	3	
固定負債	385	429	43	
借入金・社債	204	254	49	第6回普通社債（2013年5月償還予定） ▲ 50.0 第12・13回普通社債（2012年4月発行） +100.0
その他	180	174	▲ 6	
負債合計	897	928	30	
株主資本合計	975	944	▲ 30	
資本金・資本剰余金	164	164	―	
利益剰余金	880	865	▲ 14	配当金の支払（1株当たり9円） ▲ 18.5
自己株式	▲ 69	▲ 84	▲ 15	自己株式取得（2,800,000株） ▲ 15.6
その他包括利益累計額	▲ 27	▲ 31	▲ 4	
少数株主持分	128	130	2	
純資産合計	1,076	1,044	▲ 32	

宝HLD連結_CF概要

（2013年3月期 第2Q累計）

（単位：億円）	12/03期 2Q累計実績	13/03期 2Q累計実績	増減
営業キャッシュ・フロー	8	13	5
税金等調整前四半期純利益	22	16	▲ 6
減価償却費	21	20	▲ 0
売上債権の増減額（▲：増加）	▲ 18	2	21
たな卸資産の増減額（▲：増加）	▲ 2	▲ 11	▲ 9
仕入債務の増減額（▲：減少）	2	▲ 16	▲ 18
法人税等の支払額	▲ 13	▲ 24	▲ 10
その他	▲ 4	26	30
投資キャッシュ・フロー	▲ 44	▲ 25	19
有形及び無形固定資産の取得による支出	▲ 30	▲ 30	0
有形固定資産の売却による収入	4	2	▲ 2
その他	▲ 19	2	21
財務キャッシュ・フロー	▲ 20	11	31
社債の発行及び長期借入による収入	0	99	99
社債の償還及び長期借入金の返済による支出	▲ 0	▲ 50	▲ 50
自己株式の取得による支出	▲ 0	▲ 15	▲ 15
配当金の支払額	▲ 17	▲ 18	▲ 0
その他	▲ 2	▲ 3	▲ 1
現金及び現金同等物増減	▲ 57	▲ 0	56
現金及び現金同等物期首残高	283	291	7
現金及び現金同等物期末残高	226	291	64

為替前提（子会社P/L換算レート）

2Q累計	12/03期 (11年1月-6月)	13/03期 (12年1月-6月)			
（単位：円）	実績	期初予想	実績	前期差	期初予想差
ドル	82.02	75.00	**79.78**	▲ 2.24	+ 4.78
ポンド	132.58	115.00	**125.79**	▲ 6.79	+ 10.79
ユーロ	115.05	100.00	**103.49**	▲ 11.56	+ 3.49
元	12.53	12.00	**12.64**	+ 0.11	+ 0.64
100ウォン	7.45	6.70	**6.99**	▲ 0.46	+ 0.29
インドルピー	1.81	1.60	**1.54**	▲ 0.27	▲ 0.06

通期	12/03期 (11年1月-12月)	13/03期 (12年1月-12月)			
（単位：円）	実績	期初予想	修正予想	前期差	期初予想差
ドル	79.79	75.00	**78.80**	▲ 0.99	+ 3.80
ポンド	128.01	115.00	**125.20**	▲ 2.81	+ 10.20
ユーロ	111.11	100.00	**101.00**	▲ 10.11	+ 1.00
元	12.35	12.00	**12.50**	+ 0.15	+ 0.50
100ウォン	7.21	6.70	**6.90**	▲ 0.31	+ 0.20
インドルピー	1.67	1.60	**1.50**	▲ 0.17	▲ 0.10

※12/03期のインドルピーはタカラバイオDSSインド設立後、2011年5月6日以降の平均レート

株主還元方針

TaKaRaグループ中期経営計画2013（2011.04~2014.03）の財務方針

財務方針	健全な財務体質を維持しながら、成長・育成事業への投資と、積極的な株主還元を実施し、ROE（自己資本利益率）の向上を目指す。

◆健全な財務体質の維持

- 格付「シングルA」の維持

◆成長・育成事業への投資

- 成長事業と育成事業に対して優先的に投資

◆積極的な株主還元

- 配当と自己株式取得を合わせ株主還元性向50%以上を実施

健全な財務体質の維持

成長・育成事業への投資

積極的な株主還元

→ ROEの向上

$$\text{株主還元性向} = \frac{\text{株主還元総額（配当総額＋自己株式取得総額）}}{\text{みなし連結当期純利益*}} \geqq 50\%$$

*みなし連結当期純利益＝（連結経常利益－受取利息・配当金＋支払利息）×（1－法定実効税率）

利益成長と自己資本のコントロールにより、ROEの向上を目指す

資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ＞
宝ホールディングス株式会社　財務・IR部
Tel. 075-241-5124
E-Mail　ir@takara.co.jp